
船形コロニー改築等設計
公募型プロポーザル 実施要項

平成 28 年 11 月
宮城県土木部営繕課

目 次

I	本プロポーザルの背景等及び目的	1
1	本プロポーザルの背景及び施設整備の方針	
2	本プロポーザルの目的	
II	一般事項	1
1	名称	
2	主催者	
3	趣旨	
4	選定方式	
5	事務局	
III	参加申込者の資格要件等	1
1	参加申込者の資格要件	
2	参加申込者の参加形態	
IV	評価・選定	2
1	判定委員会	
2	評価・選定方式	
3	選定結果の発表	
4	技術提案をを求める評価テーマ	
V	手続等	3
1	実施要項の入手	
2	参加申込等	
3	現地見学会	
VI	プロポーザルの日程（予定）	4
VII	設計業務委託	4
1	業務委託契約	
2	業務内容	
3	設計業務委託料	
4	管理技術者等	
VIII	著作権及び提出図書への取扱い	4
1	著作権の帰属	
2	技術提案書の取扱い	
IX	経費の負担	5
X	失格	5
XI	その他	5

別添 1 参加申込書・技術提案書作成要領

様式関係

別添 2 平成 28 年度 船形コロニー改築等設計公募型プロポーザル 評価・選定基準

別添 3 船形コロニー改築等設計 計画概要書

別表・別図

別添 4 船形コロニー整備事業 基本構想（概要版，本編）

I 本プロポーザルの背景等及び目的

1 本プロポーザルの背景及び施設整備の方針

重度知的障害者支援施設である船形コロニーは建物・設備の老朽化が進み、施設運営に支障を来していることから、平成26年度から平成27年度にかけて外部有識者等で構成される「県立障害児者入所施設のあり方検討会」及び「船形コロニー施設整備検討会」を設置し、船形コロニーが県立施設として果たすべき役割や機能を整理するとともに、老朽化が著しい船形コロニーの今後の施設整備のあり方について検討してきました。

両検討会における検討の結果、船形コロニーは重度・最重度の知的障害者を受け入れ、県立施設として県全域のセーフティネットとしての役割を引き続き果たしていくべきであるとの方向性が示されたことから、以下の方針の下に船形コロニーを整備することとしました。

- ① 老朽化した建物を建て替え、利用者にとって暮らしやすい環境を整備する。
- ② 限られた財源及び既存の資源を有効に活用し、県立施設としてのセンター機能が効率的・効果的に発揮できるよう整備する。
- ③ 現在の建築費高騰の状況下での一括整備はコスト高となることから、現在の機能を維持しつつ、段階的に整備する。

2 本プロポーザルの目的

本プロポーザルは、船形コロニーの改築等設計に当たり、選定方法の公正性等を確保しつつ、上記方針の下で、より優れた設計者を選定するため、公募型プロポーザル方式により広く提案を求め、この業務に最も適した設計業務委託候補者(以下「設計候補者」という。)を選定することを目的とします。

II 一般事項

- 1 名 称 船形コロニー改築等設計公募型プロポーザル
- 2 主 催 者 宮 城 県
- 3 趣 旨 本プロポーザルは、具体的な設計案を求めるものではなく、設計候補者の選定のために必要な技術提案書の提出を求めるものです。
- 4 選定方式 本プロポーザル方式は、公募型とし、2段階の選定方式とします。
- 5 事 務 局 宮城県土木部営繕課
担当：企画調査班
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号
TEL：022-211-3264
FAX：022-211-3190
E-Mail：eizenp@pref.miyagi.jp
ホームページ：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/eizen/>

III 参加申込者の資格要件等

1 参加申込者の資格要件

本プロポーザルに参加を申し込む建築設計事務所(以下「参加申込者」という。)の必要な資格は、参加申込日において次の各号に該当することです。

- (1) 宮城県建設関連業務指名競争入札参加資格承認者名簿(業種「建築設計」に限る。)に登録されたA等級の格付けを有する者であること。
- (2) 営業所の所在地を問わない。
- (3) 地方自治法施行令(昭和22年政令第16号)第167条の4の規定に該当しない者であること。

- (4) 宮城県建設工事入札参加登録者等指名停止要領に基づく入札参加指名停止措置を受けていない者であること。
- (5) 建築士法（昭和25年法律第202号）第23条の規定に基づく一級建築士事務所の登録を受けている者であること。

2 参加申込者の参加形態

- (1) 設計は、管理技術者及び総合、構造、電気、機械の各業務分野を分担する主任担当技術者から構成される「設計チーム」によって行うこと。
- (2) (1)に規定する「設計チーム」の構成員のうち管理技術者を含む2名以上は、参加申込者に所属する一級建築士とすること。
- (3) (1)に規定する「設計チーム」の構成員のうち(2)に規定する一級建築士以外の者は、参加申込者以外の事務所に所属する技術者とすることができる。ただし、「設計チーム」の構成員が他の「設計チーム」の構成員を兼ねることはできない。
- (4) 同一の参加申込者からの設計チームは、1チームに限ること。

IV 評価・選定

1 判定委員会

技術提案書の審査は、平成28年度 船形コロニー改築等設計公募型プロポーザル判定委員会(以下「判定委員会」という。)が行います。

判定委員会は、次の判定委員5名により組織されます(五十音順, 敬称略)。

石井 敏 (東北工業大学 工学部建築学科 教授)

岡本 政喜 (国土交通省 東北地方整備局営繕部 整備課長)

千葉 隆政 (宮城県 保健福祉部 次長)

中川 昌 (社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 宮城県船形コロニー 総合施設長)

三浦 俊徳 (宮城県 土木部 次長(技術担当))

2 評価・選定方式

(1) 第1段階

判定委員会が、平成28年度 船形コロニー改築等設計公募型プロポーザル 評価・選定基準(以下「評価・選定基準」という。)(別添2参照)に基づき参加申込書の内容を評価し、参加申込者の中から評価得点上位5位までをプロポーザルの提案予定者(以下「プロポーザル提案者」という。)として選定し、技術提案書の提出を求めます。

ただし、第5位が複数の場合は、全てプロポーザル提案者に含むものとし、応募者総数が5者以下の場合は、全ての応募者をプロポーザル提案者とします。

(2) 第2段階

判定委員会の会議(以下「判定会」という。)において、プロポーザル提案者から技術提案書の内容についてヒアリングを行った上で評価・選定基準に基づき評価し、最高得点者を設計候補者として選定します。また、評価得点順位2位の者を次点候補者とします。

なお、ヒアリングの実施方法については、プロポーザル提案者に対して別途通知します。

3 選定結果の発表

第1段階の選定結果については平成29年1月11日(水)午後4時(予定)に、第2段階の選定結果については平成29年2月9日(木)午後4時(予定)に、それぞれ宮城県土木部営繕課ホームページに掲載します。

4 技術提案を求める評価テーマ

- 課題1 施設のあり方を考慮した敷地全体の配置計画及び施設計画の考え方について
- 課題2 利用者にとって暮らしやすい環境を実現するための施設づくりについて
- 課題3 施設の長寿命化やLCC縮減の方策について

V 手続等

1 実施要項の入手

本プロポーザルの参加申込方法等を含む実施要項は、営繕課ホームページから出力してください。

2 参加申込等

(1) 参加申込書等（様式－1～2）

本プロポーザルの参加申込者は、参加申込書・技術提案書作成要領(別添1)に従い、参加申込書（様式－1）及び「設計チーム・設計事務所 資格・業務実績等説明書」（様式－2）を提出してください。

① 提出場所：事務局

② 期 間：平成28年11月25日(金)から平成28年12月15日(木)まで
土曜日、日曜日及び休日を除く日の午前10時から午後4時まで
郵送の場合は、平成28年12月14日(水)の消印のあるものまで有効としますが、到着の有無を必ず事務局まで確認願います。

③ 提出方法：持参又は書留による郵送とします。封書には「船形コロニー改築等設計プロポーザル 参加申込書在中」と朱書きしてください。

(2) 技術提案書（様式－3，4－1～4－3）

技術提案書を提出できるのは参加申込者のうち第1段階で選定されたプロポーザル提案者とし、宮城県から技術提案書の提出要請の通知（以下「要請通知」という。）を行います。

① 提 案 書：1チームにつき1提案に限ります。

② 提出場所：事務局

③ 期 間：平成29年1月11日(水)から平成29年2月1日(水)まで
土曜日、日曜日及び休日を除く日の午前10時から午後4時まで
郵送の場合、平成29年1月31日(火)の消印のあるものまで有効。

④ 提出方法：持参又は書留による郵送とします。封書には、「船形コロニー改築等設計プロポーザル 技術提案書在中」と朱書きしてください。

(3) 質問書（様式－5）

本プロポーザルの参加申込書及び技術提案書についての質問は、質問書(様式－5)により提出してください。

① 提出場所：事務局

② 期 間：平成28年11月25日(金)から12月8日(木)まで
土曜日、日曜日及び休日を除く日の午前10時から午後4時まで

③ 提出方法：持参又は郵送とし、郵送の場合は、提出期間末日必着とします。

④ 回 答：平成28年12月13日(火) 午後4時(予定)

宮城県土木部営繕課ホームページに掲載します。

なお、質疑事項の内容により回答できない場合があります。

3 現地見学会

参加希望者を対象に、次のとおり現地見学会を実施します。

① 見 学 日：平成28年11月30日(水)

② 行 程：14：00～15：00 船形コロニー 見学

③ 注意事項：

・参加希望者は、当日13：55までに船形コロニー 事務管理棟2階会議室に集合してください。

・参加人数は、1チームにつき2名までとします。

・現地見学会参加中に発生した参加者の事故等について、県は一切責任を負いません。

VI プロポーザルの日程（予定）

平成28年11月22日(火)	: 第1回プロポーザル判定会
平成28年11月25日(金)	: 実施要項の公表(営繕課HPに掲載)
平成28年11月25日(金)～12月15日(木)	: 参加申込書等の提出
平成28年11月25日(金)～12月 8日(木)	: 参加申込等に関する質問書の提出
平成28年11月30日(水)	: 現地見学会
平成28年12月13日(火)	: 質問に対する回答
平成28年12月15日(木)	: 参加申込締切(郵送は前日消印有効)
平成29年 1月11日(水)	: 第1段階選定結果の公表(営繕課HP掲載) 及びプロポーザル提案者への要請通知
平成29年 1月11日(水)～ 2月 1日(水)	: 技術提案書の提出
平成29年 2月 1日(水)	: 技術提案書提出締切(郵送は前日消印有効)
平成29年 2月 8日(水)	: ヒアリング及び第2回プロポーザル判定会
平成29年 2月 9日(木)	: 第2段階選定結果の通知・公表(営繕課HP掲載)
平成29年 3月 下旬	: 契約締結予定

VII 設計業務委託

1 業務委託契約

設計候補者との間で設計業務委託契約（随意契約）を締結することを基本とします。

2 業務内容

- (1) 業務委託名 船形コロニー改築等設計業務委託
- (2) 業務概要
 - ① 全体の基本計画及び新築・改修建物の基本設計
 - ② 新居住棟（2棟）の実施設計（計160室、延べ面積6,800㎡程度）
 - ③ 既存居住棟（3棟）の解体設計
- (3) 履行期限
 - ① 既存居住棟解体実施設計（指定部分）平成30年1月下旬（予定）
 - ② ①以外の業務（指定部分以外の部分）平成30年7月下旬（予定）

3 設計業務委託料

業務に対する設計業務委託料は、県が定める方法により算出した額を上限とします。

4 管理技術者等

本業務委託の受託者の管理技術者及び各業務分野の担当者は、設計チーム・設計事務所 資格・業務実績等説明書(様式—2)に記載した設計チームの管理技術者及び各業務分野の主任担当技術者をそれぞれ選任するものとします。

VIII 著作権及び提出図書取扱

1 著作権の帰属

提出された技術提案書の著作権は、参加申込者に帰属するものとします。

なお、著作権が第三者に帰属する著作物の使用の責は、参加申込者に全て帰するものとします。

2 技術提案書の取扱い

前項の規定にかかわらず、本プロポーザルに関する公表、展示及びその他県が必要と認める場合に、県は提出された技術提案書を無償で使用することができるものとします。

IX 経費の負担

参加申込者が本プロポーザルの参加(技術提案書の作成及び提出を含む。)に要した全ての経費は、参加申込者の負担とします。

X 失 格

次の各号に該当した場合は、失格となる場合があります。

- (1) IIIの参加申込者の資格要件等に違反した場合
- (2) 提出書類に虚偽の記載をした場合
- (3) 第三者が提案者を認識(又は推測)できる名称, 暗号, 記号等を技術提案書に付した場合
- (4) 「実施要項」の基本的な条件に違反した場合
- (5) 参加申込書提出後, 宮城県建設工事入札参加登録者等指名停止要領に基づく入札参加指名停止措置を受けた場合

XI その他

- (1) 県は, VIII 2 の場合を除き, 提出書類を無断で使用しないものとします。
- (2) 県は, 設計候補者の選定を行う作業に必要な範囲において, 提出書類の複製を製作することがあります。
- (3) 「設計チーム・設計事務所 資格・業務実績等説明書」(様式一2)に記載された管理技術者及び各主任担当技術者は, 病気, 死亡等極めて特別の理由があると認められた場合を除き, 変更することはできません。
- (4) 提出された書類は, 返却しません。
- (5) 書類等の作成において使用する言語, 通貨, 時刻及び単位は, 日本語, 日本円, 日本の標準時及び計量法(平成4年法律第51号)に規定された単位に限ります。

船形コロニー改築等設計公募型プロポーザル 参加申込書・技術提案書作成要領

1 参加申込書

(1) 参加申込書（様式—1）

イ 「参加申込者」欄について

- (イ) 参加申込者は、実施要項 Ⅲ「1 参加申込者の資格要件」を満足する建築士事務所名を記載して下さい。
- (ロ) 押印欄は、当該建築士事務所の開設者が法人の場合は当該法人の社印及び代表者印を、個人の場合は当該個人の印を押印して下さい。

(2) 設計チーム・設計事務所 資格・業務実績等説明書（様式—2）

イ 「参加申込者」欄について

- (イ) (1) イに同じ。

ロ 「一級建築士事務所登録」「管理建築士（一級建築士）」欄について

- (イ) 参加申込者である一級建築士事務所の登録番号、登録年月日及び有効期限を記入すること。
- (ロ) 当該事務所の管理建築士の一級建築士登録番号、登録年月日及び氏名を記入し、押印すること。

ハ 【【設計チーム】 資格・CPD単位取得実績】欄について

- (イ) 管理技術者予定者及び各主任担当技術者予定者について、それぞれ氏名及び所属事務所・役職を記入し、押印すること。
- (ロ) 「専門分野の技術資格」欄は、管理技術者予定者及び各主任担当技術者予定者について、資格の名称、登録番号及び登録年月日を記入すること。
- (ハ) 「CPD単位取得実績」欄については、以下のとおりとします。
 - a 建築CPD運営会議（事務局：（公財）建築技術教育普及センター）を構成する各団体が主催した講習会等で参加申込書の提出期限から過去1年以内に発行されたCPD単位取得証明書等に記載されたCPD（継続能力/職能開発）の単位について記入すること。
 - b CPDを取得した団体の名称、当該団体の推奨単位数、当該団体での取得単位数及び当該取得単位数を当該団体の推奨単位数で除した値（%）を記入すること。
 - c 推奨単位数は、制度（参加申込者独自の制度及び推奨単位を定めていない制度を除く。）を定めている当該団体が示す値とすること。

ニ 【【設計チーム】 設計業務実績】欄について

- (イ) 設計業務実績は、一つの施設についての基本設計と実施設計の両方を行った場合を1件とします（一つの施設についての設計業務委託が基本設計と実施設計に分かれている場合は、両方を記載（添付書類共）すること）。
- (ロ) 改修工事（耐震補強工事を含む。）及び模様替工事の設計業務は、今回の設計業務実績とはしません。
- (ハ) 設計業務実績については、平成18年4月1日以降に完了した業務についていずれか1件のみを記入すること。
- (ニ) 記入上の留意事項については、以下のとおりとします。
 - a 業務委託名称欄には、その設計業務の業務名称を記入すること。
 - b 一つの施設についての設計業務委託が基本設計と実施設計に分かれている場合は、業務委託名称及び履行期間については、上下2段にそれぞれ記入することができる（設計業務委託が基本設計と実施設計に分かれていない場合は、1段のみの記入で可）。
 - c 用途欄には、以下の用途区分の番号のいずれかを記入すること。
 - ① 知的障害児者が入所する社会福祉施設
 - ② 入所型社会福祉施設
 - ③ ①及び②以外
 - d 工事種別欄には、新築、増築、改築のいずれかを記入すること。
 - e 規模欄には、新築、増築、改築工事に係る部分の床面積（㎡）を記入すること。
 - f 立場欄には、設計業務における役割分担における管理技術者、主任技術者、担当技術者

等の別を下記の例により記入すること。

- ・管：管理技術者
- ・主：主任技術者
- ・担(意)：担当技術者(意匠)
- ・担(構)：担当技術者(構造)
- ・担(電)：担当技術者(電気)
- ・担(機)：担当技術者(機械)

ホ 資格・CPD単位取得実績・実績等を証明する書類について

(イ) 資格、CPD単位取得実績及び設計業務実績欄に記載した内容を証明する書類を必ず添付すること。

(ロ) 資格及び設計業務実績欄に記載した内容を証明する書類は、以下のものを参考とすること。

- a 資格欄に記載した内容を証明する書類
 - ・各資格の免許状その他の証明書
- b CPD単位取得実績欄に記載した内容を証明する書類
 - ・各団体又は建築CPD運営会議が発行するCPD単位取得証明書等
- c 設計業務実績欄に記載した内容を証明する書類
 - ・契約書の写し
 - ・当該契約に係る物件の図面（設計概要が判別できる程度のもの）
 - ・建築士法第24条の2に基づく帳簿の写し
 - ・管理技術者、主任技術者等の通知書の写し等

※ 証明書類の内容確認の結果、設計業務実績が記載内容どおりと認められない又は確認できない場合は、その部分の記載を修正又は削除して評価します。

ヘ 【「設計事務所」設計業務実績】欄について

(イ) 設計業務実績については、当該事務所が委託契約等を締結した設計業務のうち平成18年4月1日以降に完了した全ての業務のうち、いずれか2件を記入すること。

(ロ) 記入上の留意事項については、(2)ニに準じる。

ト 事務所登録・実績等を証明する書類について

(イ) 一級建築士事務所登録を証明する書類(登録通知書等)を添付すること。

(ロ) 設計業務実績欄に記載した内容を証明する書類を必ず添付すること。

(ハ) 資格及び設計業務実績欄に記載した内容を証明する書類は、(2)ニに準じる。

※ 証明書類の内容確認の結果、設計業務実績が記載内容どおりと認められない又は確認できない場合は、その部分の記載を修正又は削除して評価します。

2 技術提案書

(1) 業務実施方針(様式—3)

業務の取組体制、設計チームの特徴、特に重視する設計上の配慮事項(様式—4—1～4—3に記載する内容を除く)、その他の業務実施上の配慮事項について記載して下さい。

(2) 課題に対する提案(様式—4—1～4—3)

別添3「船形コロニー改築等設計 計画概要書」及び別添4「船形コロニー整備事業 基本構想(概要版,本編)」を基に、実施要項IV「4 技術提案を求める評価テーマ」の課題1～3について提案して下さい。

(3) 提案書作成上の留意事項

提案書の作成には、以下の事項に留意して下さい。

- ① 提案書は、業務実施方針(様式—3)についてA4判縦1枚、課題に対する提案(様式—4—1～4—3)についてA3判横1枚とし、各8部を提出して下さい。
- ② 説明文字の大きさは、9ポイント以上の大きさで作成して下さい。また、各提案には、カラーコピーを用いても構いません。
- ③ 提案書は、基本的な考え方を文章で記述するものとし、文章を補完するための最小限の写真、イラスト、イメージ図等の使用は認めますが、設計内容を具体的に表現することは禁止します(別紙 イメージ図等の例 参照)。
- ④ 提案書には、住所、氏名等の提案者を認識できる表示を付さないでください。

船形コロニー改築等設計公募型プロポーザル

参 加 申 込 書

宮 城 県 知 事
村 井 嘉 浩 殿

標記について、必要書類を添付して参加を申し込みます。

平成 年 月 日

(参加申込者) 住 所 〒

参加申込者名
(代表者名)

印

電 話 番 号

F A X

メールアドレス

設計チーム・設計事務所 資格・業務実績等説明書

参加申込者名

(代表者名)

㊞

一級建築士事務所登録				管理建築士（一級建築士）			
登録番号	都道府県	第	号	氏名	㊞		
登録年月日	平成	年	月 日	登録番号	(大臣) 第	号	
有効期限	平成	年	月 日	登録年月日	S・H	年	月 日
【設計チーム】 資格・CPD単位取得実績							
A 管理技術者予定者				氏名	㊞		
所属事務所・役職							
専門分野の技術資格				CPD単位取得実績			
資格名称	一級建築士			団体の名称			
登録番号	(大臣) 第	号		取得単位数	推奨単位数		
登録年月日	S・H	年	月 日	取得単位数/推奨単位数		%	
G 主任担当技術者（総合）予定者				氏名	㊞		
所属事務所・役職							
専門分野の技術資格				CPD単位取得実績			
資格名称	一級建築士			団体の名称			
登録番号	(大臣) 第	号		取得単位数	推奨単位数		
登録年月日	S・H	年	月 日	取得単位数/推奨単位数		%	
S 主任担当技術者（構造）予定者				氏名	㊞		
所属事務所・役職							
専門分野の技術資格				CPD単位取得実績			
資格名称	一級建築士			団体の名称			
登録番号	(大臣) 第	号		取得単位数	推奨単位数		
登録年月日	S・H	年	月 日	取得単位数/推奨単位数		%	
E 主任担当技術者（電気）予定者				氏名	㊞		
所属事務所・役職							
専門分野の技術資格				CPD単位取得実績			
資格名称	一級建築士			団体の名称			
登録番号	(大臣) 第	号		取得単位数	推奨単位数		
登録年月日	S・H	年	月 日	取得単位数/推奨単位数		%	
M 主任担当技術者（機械）予定者				氏名	㊞		
所属事務所・役職							
専門分野の技術資格				CPD単位取得実績			
資格名称	一級建築士			団体の名称			
登録番号	(大臣) 第	号		取得単位数	推奨単位数		
登録年月日	S・H	年	月 日	取得単位数/推奨単位数		%	

(注1) 内容は、申込日現在で記入してください。

【設計チーム】 設計業務実績						
A 管理技術者予定者						
	業務委託名称	履行期間 (開始・完了年月)	工事種別 (新・増・改築)	規模	用途	立場
		H H 年 月 から H H 年 月 まで		m ²		
		H H 年 月 から H H 年 月 まで				
G 主任担当技術者（総合）予定者						
	業務委託名称	履行期間 (開始・完了年月)	工事種別 (新・増・改築)	規模	用途	立場
		H H 年 月 から H H 年 月 まで		m ²		
		H H 年 月 から H H 年 月 まで				
S 主任担当技術者（構造）予定者						
	業務委託名称	履行期間 (開始・完了年月)	工事種別 (新・増・改築)	規模	用途	立場
		H H 年 月 から H H 年 月 まで		m ²		
		H H 年 月 から H H 年 月 まで				
E 主任担当技術者（電気）予定者						
	業務委託名称	履行期間 (開始・完了年月)	工事種別 (新・増・改築)	規模	用途	立場
		H H 年 月 から H H 年 月 まで		m ²		
		H H 年 月 から H H 年 月 まで				
M 主任担当技術者（機械）予定者						
	業務委託名称	履行期間 (開始・完了年月)	工事種別 (新・増・改築)	規模	用途	立場
		H H 年 月 から H H 年 月 まで		m ²		
		H H 年 月 から H H 年 月 まで				
【設計事務所】 設計業務実績						
No.	業務委託名称	履行期間 (開始・完了年月)	工事種別 (新・増・改築)	規模	用途	
		H H 年 月 から H H 年 月 まで		m ²		
		H H 年 月 から H H 年 月 まで				
		H H 年 月 から H H 年 月 まで		m ²		
		H H 年 月 から H H 年 月 まで				

(注2) 設計業務実績欄は、平成18年4月1日以降に完了したものを記載して下さい。

業務実施方針

業務の取組体制, 設計チームの特徴, 特に重視する設計上の配慮事項 (様式—4—1～4—3に記載する内容を除く),
その他の業務実施上の配慮事項

(A4版縦1枚)

課題に対する提案

課題1	施設のあり方を考慮した敷地全体の配置計画及び施設計画の考え方について	
		(A3版横1枚)

課題に対する提案

課題2	利用者にとって暮らしやすい環境を実現するための施設づくりについて	
		(A3版横1枚)

課題に対する提案

課題3	施設の長寿命化やLCC縮減の方策について	
		(A3版横1枚)

「船形コロニー改築等設計設計公募型プロポーザル」質問書

平成 年 月 日

参加申込者名：
 代表者名：
 担当者名：
 電 話：
 F A X：

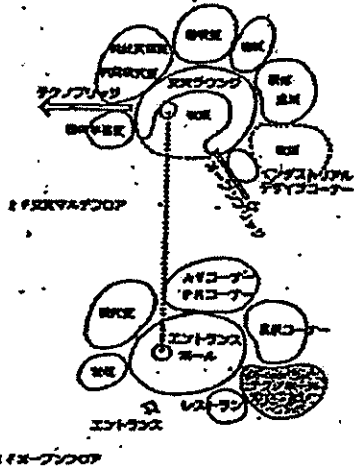
番号	質 問 事 項
	<div style="border-top: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black; height: 100px;"></div> <div style="border-top: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black; height: 100px;"></div> <div style="border-top: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black; height: 100px;"></div> <div style="border-top: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black; height: 100px;"></div> <div style="border-top: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black; height: 100px;"></div> <div style="border-top: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black; height: 100px;"></div> <div style="border-top: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black; height: 100px;"></div> <div style="border-top: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black; height: 100px;"></div> <div style="border-top: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black; height: 100px;"></div> <div style="border-top: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black; height: 100px;"></div> <div style="border-top: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black; height: 100px;"></div> <div style="border-top: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black; height: 100px;"></div> <div style="border-top: 1px dashed black; border-bottom: 1px dashed black; height: 100px;"></div>

別紙 イメージ図等の例

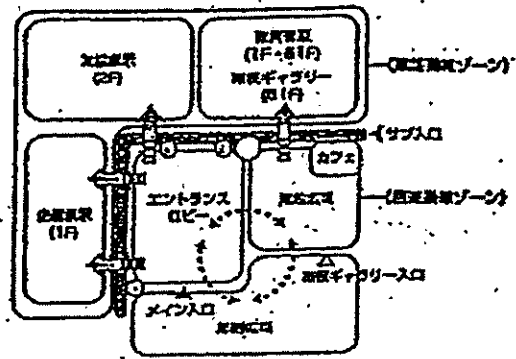
説明書等への添付資料の記載例

技術提案書への表現例

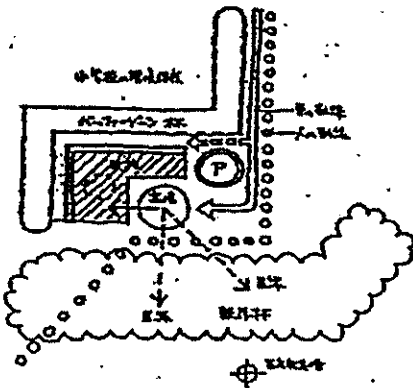
①許される表現例及びその理由



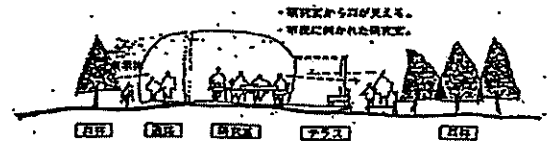
ホール、ラウンジを中心にするという設計の考え方を表現しているものである。



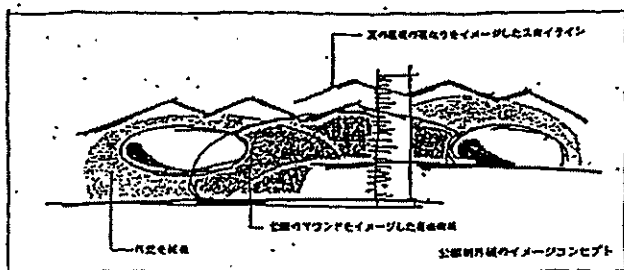
人の動線を説明するときに、それを補うために建物内の簡単なゾーニングの考え方を表現している。



人の動線を説明するときに、それを補うために敷地内の簡単なゾーニングの考え方を表現している。

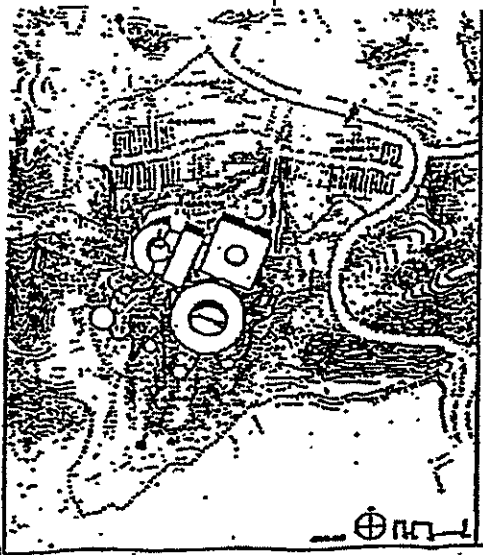


施設と周辺環境との関係をイメージで表現しているものであり、建物の具体的な形状は表現していない。

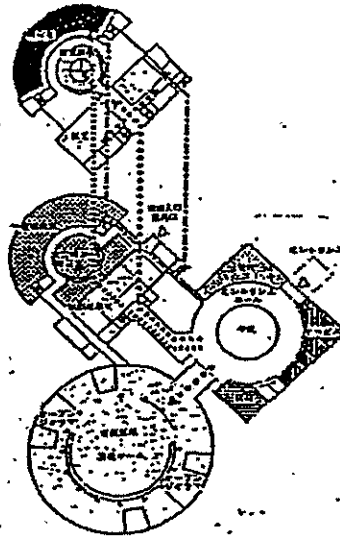


建物のイメージを表現しているものであり、建物の具体的な形状は表現していない。

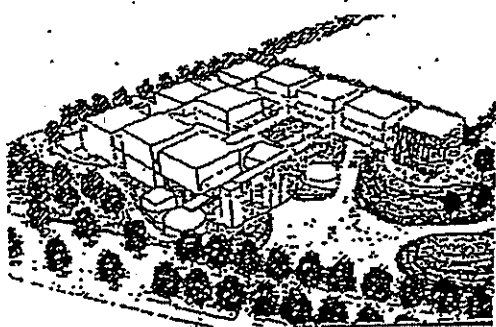
②許されない表現例及びその理由(その1)



建物形状が具体的に表現された、周辺地域も含めた配置図である。



具体的な平面図である。

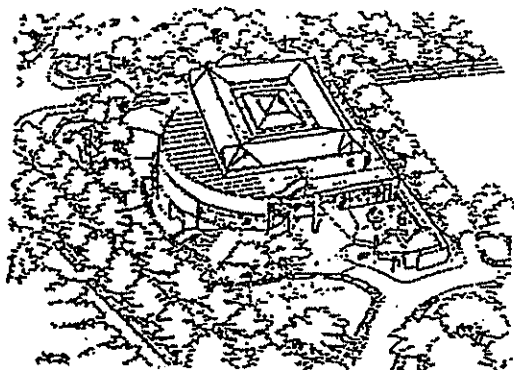


建物の具体的な配置計画やボリューム等が具体的に表現された鳥瞰図である。

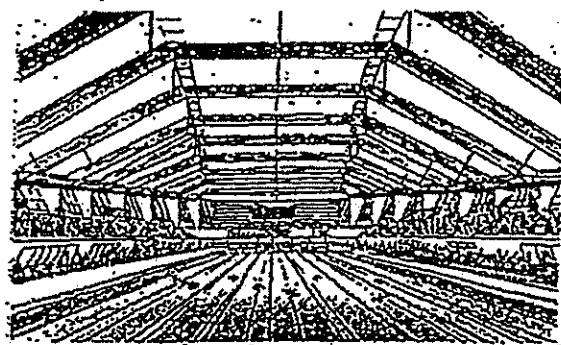


建物の具体的な形状が表現された透視図である。

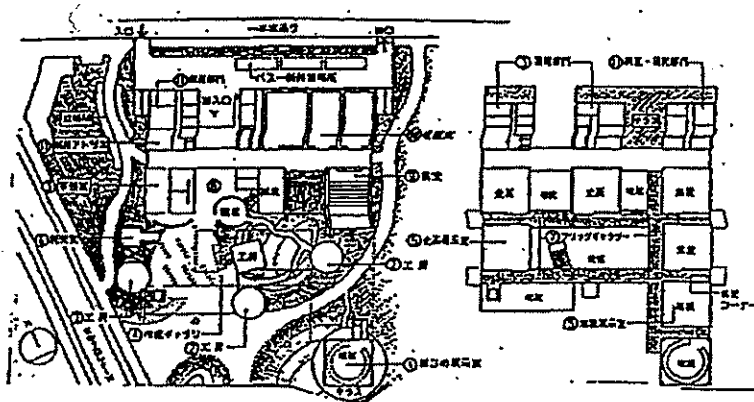
②許されない表現例及びその理由(その2)



外観の形状が具体的に表現された鳥瞰図である。



内観の透視図である。



一定の尺度のもとで作成された具体的な配置図、平面図である。

※建物イメージを表現するために既存の建築物等の写真、イラスト等を使用することは認めるが、この場合引用した建築物等の名称を具体的に記入すること。

平成28年度 船形コロニー改築等設計公募型プロポーザル 評価・選定基準

■ 第1段階

● 評価方法

- ・ 設計者・設計事務所の資格・実績等技術力を客観評価
- ・ 選定基準に基づき、プロポーザル提案者5者を選定

● 配点(概要)

- ・ 設計者の資格・実績 25点 (83.3%)
- ・ 設計事務所の実績 5点 (16.7%)

● 配点(詳細)

評価項目	評価の観点		配点ウェイト	
	判断基準		小計	
(1) 資格<設計者>	専門分野の技術資格		5点 (16.7%)	
	主任担当技術者(*1)	総合	2	
		構造	1	
		電気	1	
		機械	1	
(2) 技術力<設計者>	特定期間(*2)の同種又は類似業務の実績(*3)		10点 (33.3%)	
	管理技術者		4	
	主任担当技術者	総合	3	
		構造	1	
		電気	1	
		機械	1	
	CPD推奨単位取得実績		10点 (33.3%)	
	管理技術者		2	
	主任担当技術者	総合	2	
		構造	2	
		電気	2	
		機械	2	
(3) 技術力<事務所>	特定期間(*2)の同種又は類似業務の実績(*4)		5点 (16.7%)	
合計点			30点 (100%)	

(1) 資格<設計者>の評価点

次式で計算される各主任担当技術者(*1)の技術資格に係る評価点とする。

$$\begin{aligned} \text{主任担当技術者の技術資格に係る評価点} &= \sum(\text{各主任担当技術者の技術資格に係る評価点}) \\ &= \sum(\text{配点ウェイト} \times \text{技術資格評価係数}) \end{aligned}$$

*1 各主任担当技術者の分担業務分野の業務内容並びに評価対象技術資格及び評価係数

分担業務分野	業務内容	評価対象技術資格	技術資格評価係数
総合	H21国交省告示15号別添一第1項第1号及び第2号で示される設計の種類における「総合」	一級建築士	1.0
構造	同上「構造」	一級建築士	1.0
電気	同上「設備」のうち、「電気設備」に係るもの	建築設備士、一級建築士	1.0
機械	同上「設備」のうち、「給排水衛生設備」、「空調換気設備」及び「昇降機等」に係るもの	建築設備士、一級建築士	1.0

(2) 技術力<設計者>の評価点

*2 特定期間：平成18年4月1日以降に完了したもの。

*3 同種又は類似業務の実績

下記の用途要件及び規模要件を満たす新築・改築・増築の基本・実施設計の実績

	用途要件	規模要件
同種業務	障害者支援施設	延べ面積3,000㎡以上
類似業務	入所型社会福祉施設	延べ面積2,000㎡以上

① 特定期間(*2)の同種又は類似業務の実績(*3)

次式で計算される管理技術者及び各主任担当技術者の特定期間の同種又は類似業務の実績に係る評価点とする。

設計者の業務実績に係る評価点 = Σ (管理技術者及び主任担当技術者の業務実績に係る評価点)

= Σ (配点ウェイト × 設計者業務実績評価係数)

設計者業務実績評価係数 = ④ 同種又は類似業務に係る係数 × ⑤ 携わった立場に係る係数

④ 同種又は類似業務に係る係数 = $\begin{cases} 1.0 & (\text{同種業務}) \\ 0.5 & (\text{類似業務}) \end{cases}$

⑤ 携わった立場に係る係数

過去の実績での立場	管理技術者の 実績評価の場合	主任担当技術者の 実績評価の場合
管理技術者の立場	1.0	1.0
主任担当技術者の立場	0.5	1.0
担当技術者の立場	0.3	0.5

※ 当該実績の分担業務分野が、本業務での分担業務分野と同じ場合に限る。

② CPD推奨単位取得実績

次式で計算されるCPD単位取得実績に係る評価点とする。

設計者のCPD単位取得実績に係る評価点 = Σ (管理技術者及び主任担当技術者の業務実績に係る評価点)

= Σ (配点ウェイト × 設計者のCPD単位取得実績評価係数)

取得した単位数	CPD単位取得実績 評価係数
推奨単位以上	1.0
推奨単位の1/2以上	0.5
推奨単位の1/2未満	0

(3) 技術力<事務所>の評価点

*2 特定期間：平成18年4月1日以降に完了したもの。((2) 技術力<設計者>の評価点の場合と同じ。)

*4 同種又は類似業務の実績

次式で計算される設計事務所の特定期間(*2)の同種又は類似業務の実績に係る評価点とする。

設計事務所の業務実績に係る評価点 = 配点ウェイト × 事務所業務実績評価係数

事務所業務実績評価係数

類似業務の実績 \ 同種業務の実績	2件	1件	0件
	2件	1.0	0.6
1件	0.8	0.4	0
0件	0.4	0.2	0

■ 第2段階

● 評価方法

- ・ 第1段階の実績等評価＋技術提案に対する評価
- ・ 技術提案：実施方針および評価テーマ(3つ)
- ・ 技術者の能力の直接確認のため、ヒアリングを実施

● 配点(概要)

・ 設計者の資格・実績	25 点	(25.0%)
・ 事務所の実績	5 点	(5.0%)
・ 業務の実施方針・取組意欲等	20 点	(20.0%)
・ 評価テーマに対する技術提案	50 点	(50.0%)
	計 100 点	(100.0%)

● 配点(詳細)

評価項目	評価の観点		配点ウェイト		
	判断基準		小計		
資格<設計者>	専門分野の技術資格		5 点 (5%)		
	主任担当技術者	総合	2		
		構造	1		
		電気	1		
		機械	1		
技術力<設計者>	特定期間の同種又は類似業務の実績		10 点 (10%)		
	管理技術者	主任担当技術者	総合	3	
		主任担当技術者	構造	1	
			電気	1	
			機械	1	
			CPD推奨単位取得実績		
	管理技術者	主任担当技術者	総合	2	
		主任担当技術者	構造	2	
			電気	2	
			機械	2	
技術力<事務所>	特定期間の同種又は類似業務の実績		5 点 (5%)		
小計			30 点 (30%)		
業務実施方針及び手法	業務の理解度及び取組意欲		8 点 (8%)		
	業務の実施方針	業務内容、業務背景、手続の理解 及び積極性	8		
		業務への取組体制、設計チームの特徴、特に重視する設計上の配慮事項等について、的確性、独創性、実現性等を総合的に評価	12		
	評価テーマに対する技術提案		50 点 (50%)		
	課題	課題 1	各テーマについて、その的確性(与条件との整合性が取れているか等)、独創性(工学的知見に基づく独創的な提案がされているか等)、実現性(提案内容が理論的に裏付けられており、説得力のある提案となっているか等)を考慮して総合的に評価する。	20	
課題 2		20			
課題 3		10			
小計			70 点 (70%)		
合計点			100 点 (100%)		

● 技術提案の評価方法

- ・ 各項目について各判定委員が5段階評価し、各項目ごとに各判定委員の評価点の合計点に(配点ウェイト/出席判定委員数×5)を乗じたものを、各項目の評価点とする。

船形コロニー改築等設計 計画概要書

平成28年11月
宮城県土木部営繕課

I 基本方針

1 整備の目的

昭和48年に開設した船形コロニーは、障害者総合支援法に基づく「障害者支援施設」として、地域での生活が困難な重度・最重度の知的障害者を県内全域から受け入れている。

現在、建物・設備の老朽化が進み、また、バリアフリーに対応していないこと、居室の多くが相部屋のためプライバシーが確保できていないこと、更には、一人当たりの居室の広さが、現在の国の基準を満たしていないことなどにより、入所利用者の日常生活や入所希望者の受け入れ等に影響が生じており、施設運営に支障を来していることから、建物・設備の整備が喫緊の課題となっている。

これらを踏まえ、船形コロニーは、県立施設としての役割・機能であるセンター機能を担うとともに、老朽化した居住棟及び支援に必要な建物を早期に建て替えが可能な現地での建て替えにより、重度・最重度の障害者の安全・安心な生活環境を提供するため、早期整備をおこなうものである。

2 設計の基本コンセプト

- (1) 機能的で使いやすい施設とする。
- (2) 災害に強く、安全性の高い施設とする。
- (3) 維持管理が容易で、リノベーションしやすい施設とする。
- (4) 地球環境、周辺環境に配慮した施設とする。
- (5) 先進的な機能の導入等による維持管理費の縮減を図った施設とする。

3 設計方式 基本設計、一部実施設計一括委託方式

II 施設計画・設計条件等

1 業務委託名称

船形コロニー改築等設計業務委託

2 建築場所

黒川郡大和町吉田字上童子沢21

敷地面積 約466,000㎡ うち、整備敷地面積 約38,000㎡

3 施設用途 児童福祉施設等（障害者支援施設）

4 法規制等

- | | |
|-------------|---|
| (1) 都市計画区域等 | 都市計画区域内 市街化調整区域 |
| (2) 用途地域 | 指定なし |
| (3) 容積率 | 200% |
| (4) 建ぺい率 | 70% |
| (5) 防火地域等 | 建築基準法第22条指定区域 |
| (6) 下水道処理 | あり（共同溝あり） |
| (7) その他の区域等 | 土砂災害危険区域（急傾斜地）あり |
| (8) 接続先道路 | 町道（敷地西部）上峰中山線 幅員3.4~28.0m（平均11.5m）
接続先：県道147号線 |

5 事業規模（予定）

（1）施設整備計画

◇ 工事種別 新築，改築，大規模改修，解体

◇ 構造・規模等

1）新築工事

- ・居住棟（A棟） 平家建て 延べ面積 約3,300㎡程度
- ・居住棟（B棟） 平家建て 延べ面積 約3,500㎡程度
- ・居住棟（C棟） 平家建て 延べ面積 約3,700㎡程度
- ・付属建物（活動・給食） 平家建て 延べ面積 約2,150㎡程度
- ・付属建物（管理・研修） 2-3階建て 延べ面積 約1,350㎡程度
- ・付属建物（その他） 駐輪場，ごみ置場，物置等

※付属建物は1棟に合築も可能とする。

2）解体工事

- ・居住棟（セルフふながた）RC造 平家建て一部2階 延べ面積 約2,368㎡
- ・居住棟（おおくら園） RC造 平家建て一部2階 延べ面積 約2,352㎡
- ・居住棟（はちくら園） RC造 平家建て一部2階 延べ面積 約2,337㎡
- ・別途：居住棟（かまくら園），付属建物（各センター）等

3）改修工事（設計別途）

- ・居住棟（とがくら園） RC造 平家建て 延べ面積 約4,068㎡
- ・体育館 RC+S造 平家建て 延べ面積 約847㎡

4）外構工事

建物周囲，アプローチ（渡り廊下等）
駐車場 100台程度
その他（既存共同溝，困障工事等）

5）その他

- ・昇降機設備（計画による）
- ・監視カメラ設備（外部，出入口等）
- ・自家発電設備
- ・上下水道，電気等の引き込み

（2）必要諸室等

- ・居住部門 居室8ユニット80室×3棟
食堂スペース，談話スペース，水回り，玄関，事務管理室等
- ・活動部門 活動室，作業室，機能訓練室，食堂・多目的室，水回り等
地域交流，医務室，看護室，事務管理室等
- ・給食部門 厨房，食品庫，配膳室，事務室等
- ・管理部門 事務室，会議室，相談室等
- ・研修部門 研修室，図書室，地域生活移行訓練室等
- ・必要な諸室は別表2によるが，施設運営上必要な諸室は追加・変更する場合がある。

（3）予定工期（別表1 事業スケジュール 参照）

◇ 設計

- ① 既存居住棟解体実施設計（指定部分）平成30年1月下旬まで（予定）
- ② ①以外の業務（指定部分以外の部分）平成30年7月下旬まで（予定）

◇ 工事

- ① 既存居住棟（セルフふながた，はちくら園）解体工事（指定部分①）平成30年12月下旬まで（予定）
- ② 新居住棟（A，B）新築工事（①③以外の工事）（指定部分②）平成31年12月下旬まで（予定）
- ③ 既存居住棟（おおくら園）解体工事 平成32年9月下旬まで（予定）

※その他の建物は段階的に整備を実施し，平成35年度中までに全工事完了予定である。

(4) 予定工事費

(最大) 60億円以内(税抜き) ((1)施設整備計画に示した全ての工事費。)

ただし、(3)に掲げる前期工事(新居住棟(A,B)新築工事及び既存居住棟(セルフふながた・はちくら園・おおくら園)解体工事。別表1参照)の工事費は、24億円以内(税抜き)。

◇なお、次のものは工事費に含まない。

- 施設機器購入費
- 造り付け家具以外の備品類購入費
- 電波障害防除工事費

6 その他の条件、設計に当たり留意すべき事項等

- (1) 建築物は、ライフサイクルを通じた環境負荷の低減に最大限の配慮すること。
- (2) 地質調査は、設計業務委託期間中に別途実施する予定である。
- (3) 現況測量は、基本設計着手時点までに別途実施する予定である。
- (4) 既存敷地内道路下に共同溝があり、インフラが整備されている。
- (5) 地中熱等先進的エネルギー導入の検討を行うこと。
- (6) 敷地は現在の形状を活かすこととし、造成を必要とする場合でも、都市計画法に基づく開発許可が必要とならない計画とすること。
- (7) 各棟間は入所利用者等の移動のしやすさ、連携のしやすさを図り、冬期においても移動しやすいよう配慮すること。
- (8) 設計期間中に周辺住民への説明会や県民等からの意見聴取会の開催を予定しており、その資料作成や説明会等への参加も本業務に含む。
- (9) 船形コロニー整備事業基本構想に配慮すること。

7 その他

- (1) 宮城県保健福祉部障害福祉課ホームページ
大規模事業評価結果に基本構想、各検討会等の資料を参照
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/syoufuku/daikibo-kekka.html>
- (2) 船形コロニーのホームページ参照
<http://www.miyagi-sfk.net/colo/>

添付書類等

- 別表1 事業スケジュール
- 別表2 面積表・必要諸室一覧
- 別図1 案内図・位置図
- 別図2 航空写真・現況配置図
- 別図3 土砂災害危険区域
- 別図4 地質調査図

- 1) 宮城県心身障害者総合福祉施設(コロニー)地質調査柱状図(昭和48年3月)
- 2) 船形コロニー高齢者棟新築地質調査柱状図(平成3年11月)

別表1 事業スケジュール

工期 区分	年度		H28				H29				H30				H31				H32				H33				H34				H35						
	四半期		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4			
前期工事	調査・測量等					実施・契約	測量・地質調査																														
	新居住棟A 新築					基本設計	実施設計				発注	新築工事				引越	供用開始 ※1																				
	新居住棟B 新築					基本設計	実施設計				発注	新築工事				引越	供用開始																				
	既存居住棟 解体 (セルブふながた、はちくら園)					解体設計	解体設計				発注	解体工事																									
後期工事 (※2)	既存居住棟 解体 (おおくら園)					解体設計	解体設計				発注	解体工事				発注	解体工事																				
	新居住棟C 新築					基本設計	基本設計				発注	実施設計				発注	新築工事				引越	供用開始															
	新活動棟・給食棟 新築					基本設計	基本設計				発注	実施設計				発注	新築工事				引越	供用開始															
	新事務管理棟・研修棟 新築					基本設計	基本設計																														
既存活動棟・センター棟 解体 (なでくら、まつくら、エネキー、給食センター)																																					
既存事務管理棟・既存居住棟 (かまくら園) 解体																																					
とがくら園 大規模改修																																					
体育館 大規模改修																																					

※1 H32.4 宮城県啓佑学園移転完了

※2 後期工事は、基本設計の成果(概算額等)により事業内容再検討

別表2 面積表・必要諸室一覧

棟別		内訳	床面積(m ²) 【程度】	階数等	備考
居住棟	A棟 (青年～中年期)	重度・自閉 8ユニット80室	3,300	分棟 平家建1～2棟程度	混構造:可 棟間の渡り廊下
	B棟 (中年～高齢期)	重度・自閉 4ユニット40室 高齢 4ユニット40室	3,500	分棟 平家建1～2棟程度	混構造:可 棟間の渡り廊下
	C棟 (高齢期)	高齢 8ユニット80室	3,700	分棟 平家建1～2棟程度	混構造:可 棟間の渡り廊下
	計		10,500		
付属建物	活動(棟)	地域交流部門 含む	1,700	平家建て または1階部分	全体で1～2棟程度 合築可(2～3階建) ※合築の場合は事務 管理部門:2階可
	給食(棟)	医療部門含む	450	平家建て または1階部分	
	管理棟	研修部門含む	1,350	1～2階建	
	計		3,500		
全計		14,000			

新居住棟A（8ユニット80室）

機能	室名	想定面積(m ²)	室数	合計面積(m ²)	
居住部門	居室(スタンダード)	13	56	728	
	居室(二人部屋対応型)	13	16	208	
	居室(トイレ付き)	15	8	120	
	パントリー室(配膳室)	10	8	80	
	食堂スペース(ダイニング)	25	8	200	
	談話スペース(ダイニング)	25	8	200	
	浴室	10	8	80	
	脱衣室	10	8	80	
	トイレ	5	16	80	
	多機能トイレ	5	8	40	
	汚物処理室	5	8	40	
	洗面・手洗い室	10	8	80	
	洗濯乾燥室	10	4	40	
	静養室	13	4	50	
	支援員室(スタッフルーム)	25	4	100	
	収納室	15	16	240	
	玄関	10	8	80	
	事務管理部門	園長室・事務室	40	1	40
		会議室	20	1	20
		職員休憩室	20	1	20
相談室		10	2	20	
収納室		10	4	40	
トイレ(職員・客用)		15	2	30	
多機能トイレ(職員・来客用)		5	1	5	
洗濯乾燥室		10	1	10	
職員更衣室		10	2	20	
職員シャワー室		10	2	20	
雑用室・給湯室		10	1	10	

新居住棟B（8ユニット80室）

機能	室名	想定面積(m ²)	室数	合計面積(m ²)
居住部門	居室(スタンダード)	13	56	728
	居室(二人部屋対応型)	13	16	208
	居室(トイレ付き)	15	8	120
	パントリー室(配膳室)	10	8	80
	食堂スペース(デイルーム)	25	8	200
	談話スペース(デイルーム)	25	8	200
	浴室	10	8	80
	脱衣室	10	8	80
	トイレ	5	16	80
	多機能トイレ	5	8	40
	汚物処理室	5	8	40
	洗面・手洗い室	10	8	80
	洗濯乾燥室	10	4	40
	シャワー室	20	4	80
	静養室	13	4	50
	支援員室(スタッフルーム)	25	4	100
	収納室	15	16	240
	玄関	10	8	80
	日中活動部門	日中活動スペース	80	1
機械浴室		20	1	20
脱衣室(機械浴室隣接)		20	1	20
トイレ		10	2	20
多機能トイレ		10	2	20
汚物処理室		15	1	15
洗面・手洗室		10	1	10
洗濯乾燥室		10	1	10
事務管理部門	園長室・事務室	40	1	40
	会議室	20	1	20
	職員休憩室	20	1	20
	相談室	10	2	20
	収納室	10	4	40
	トイレ(職員・客用)	15	2	30
	多機能トイレ(職員・来客用)	5	1	5
	洗濯乾燥室	10	1	10
	職員更衣室	10	2	20
	職員シャワー室	10	2	20
	雑用室・給湯室	10	1	10

新居住棟C（8ユニット80室）

機能	室名	想定面積(m ²)	室数	合計面積(m ²)
居住部門	居室(スタンダード)	13	56	728
	居室(二人部屋対応型)	13	16	208
	居室(トイレ付き)	15	8	120
	パントリー室(配膳室)	10	8	80
	食堂スペース(デイルーム)	25	8	200
	談話スペース(デイルーム)	25	8	200
	浴室	10	8	80
	脱衣室	10	8	80
	トイレ	5	16	80
	多機能トイレ	5	8	40
	汚物処理室	5	8	40
	洗面・手洗い室	10	8	80
	洗濯乾燥室	10	4	40
	シャワー室	20	8	160
	静養室	13	4	52
	支援員室(スタッフルーム)	25	4	100
	収納室	15	16	240
	玄関	10	8	80
	日中活動部門	日中活動スペース	80	2
機会浴室		20	2	40
脱衣室(機械浴室隣接)		20	2	40
トイレ		10	4	40
多機能トイレ		10	4	40
汚物処理室		15	2	30
洗面・手洗室		5	2	10
洗濯乾燥室		10	2	20
事務管理部門	園長室・事務室	40	1	40
	会議室	20	1	20
	職員休憩室	20	1	20
	相談室	10	2	20
	収納室	10	4	40
	トイレ(職員・客用)	15	2	30
	多機能トイレ(職員・来客用)	5	1	5
	洗濯乾燥室	10	1	10
	職員更衣室	10	2	20
	職員シャワー室	10	2	20
	雑用室・給湯室	10	1	10

付属建物(活動・給食)

機能	室名	想定面積(m ²)	室数	合計面積(m ²)
日中活動支援・就労継続支援部門	活動室(入所)	40	2	80
	作業室(入所)	40	2	80
	機能訓練室(入所)	80	1	80
	作業室(通所)	40	4	160
	更衣室(通所)	10	2	20
	食堂・多目的室(入所)	80	3	240
	食堂・多目的室(通所)	60	1	60
	パントリー室	10	5	50
	スヌーズレシム	15	1	15
	浴室	20	2	40
	脱衣室	20	2	40
	シャワー室	5	2	10
	トイレ	20	4	80
	多機能トイレ	6	2	12
	汚物処理室	5	2	10
	洗面手洗い室	10	2	20
	洗濯乾燥室	10	2	20
	収納室	15	4	60
	支援員室(スタッフルーム)	20	2	40
	地域交流	地域交流室・飲食コーナー	30	1
会議室		10	2	20
ボランティア控室・更衣室		10	2	20
ゲストルーム(一人部屋)		15	4	60
ゲストルーム(二人部屋)		20	2	40
雑用室・給湯室		10	1	10
医療支援部門	医務室(診察室)	30	1	30
	看護師室	20	1	20
	待合室	10	1	10
	静養室	15	1	15
	宿直室	10	1	10
	薬品保管庫	15	1	15
	理髪室	20	1	20
	利用者用トイレ	5	1	5
	収納室	10	1	10
事務管理部門	職員更衣室	10	2	20
	園長室・事務室	30	1	30
	会議室	20	1	20
	職員休憩室	15	1	15
	相談室	10	2	20
	収納室	15	2	30
	トイレ(職員・客用)	10	2	20
	多機能トイレ	6	1	6
	職員更衣室	10	2	20
	職員シャワー室	5	2	10
	雑用室・給湯室	10	1	10
給食部門	備蓄保管庫	30	2	60
	職員通用口	10	1	10
	厨房(調理室, 下地処理室, 洗浄)	220	1	220
	食品庫	20	1	20
	備品庫	10	1	10
	ゴミ庫	10	1	10
	検収室	20	1	20
	配膳室	20	1	20
	下膳プール	20	1	20
	倉庫	15	1	15
	車両搬出入口	20	1	20
	事務室	15	1	15
	休憩室	10	1	10
	湯沸・雑用室	5	1	5
	職員用更衣室	10	2	20
職員用トイレ	5	2	10	
洗面所	5	1	5	

付属建物(事務管理・研修)

機能	室名	想定面積(m ²)	室数	合計面積(m ²)
事務 管理 部門	施設長室	20	1	20
	事務室	80	1	80
	事務室2	20	1	20
	事務室3	20	1	20
	応接室	20	1	20
	会議室	30	2	60
	ラウンジ	20	1	20
	相談室	20	4	80
	文書保管室	20	4	80
	収納室	20	2	40
	雑用室・湯沸室	10	2	20
	トイレ(職員・来客用)	15	4	60
	多機能トイレ	5	2	10
	展示コーナー	20	1	20
	倉庫	20	2	40
	研修 部門	研修室	200	1
研修室倉庫		50	1	50
図書資料室		50	1	50
講師控室		25	2	50
相談室		20	2	40
地域交流室		40	1	40
収納室		25	1	25
雑用室・湯沸室		10	1	10
ボランティア控え室		15	2	30
パントリー		10	1	10
トイレ(受講者利用)		20	2	40
多機能トイレ(受講者利用)		5	1	5
移地 行域 部生 門活	ゲストルームA	35	2	70
	ゲストルームB	30	2	60
	トイレ	4	1	4
	浴室	4	1	4
	脱衣所	4	1	4

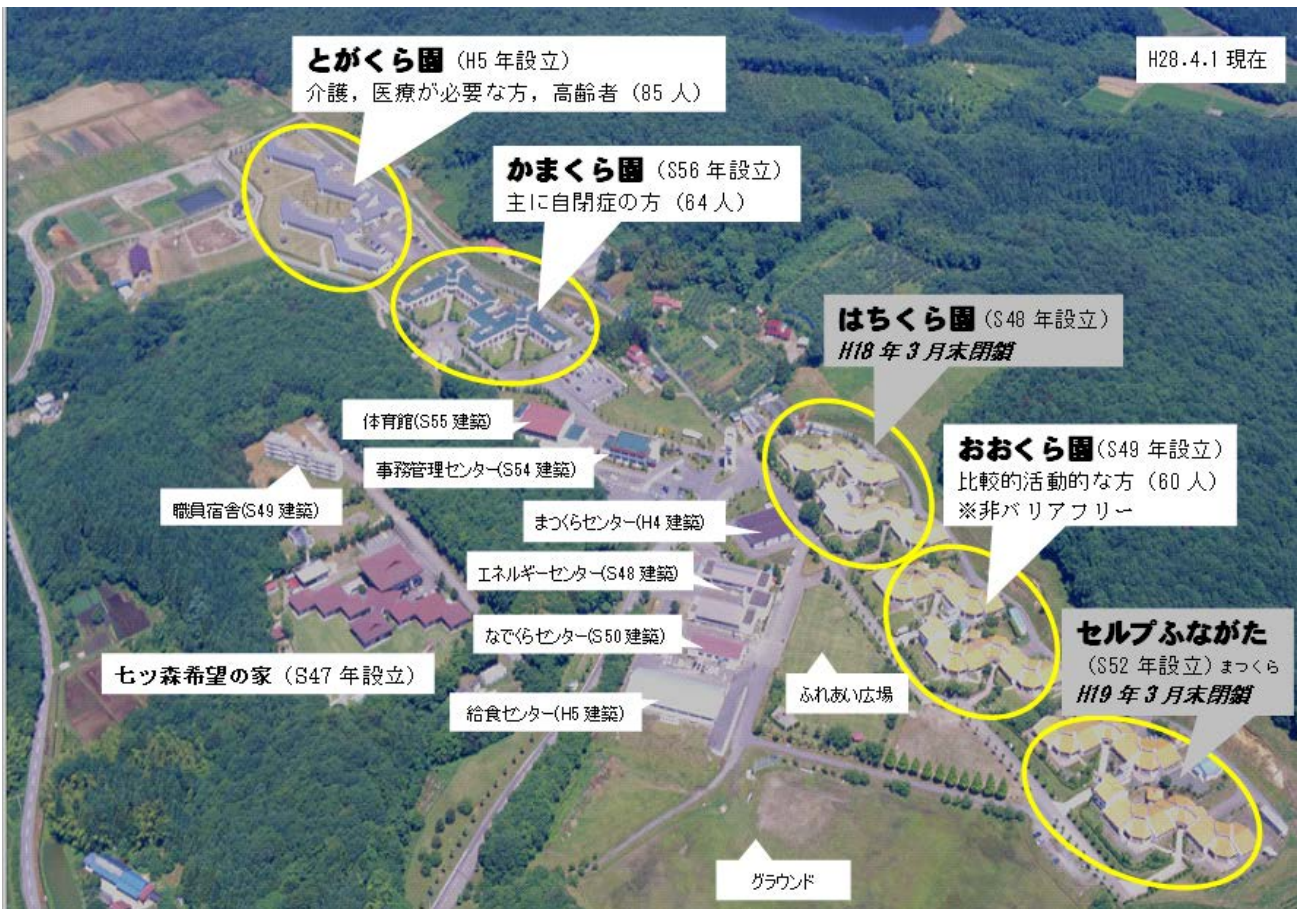
別図1

宮城県船形コロニー改築等事業 案内図・位置図

◆案内図



◆位置図 (建物別建設時期, 入所利用者の主な特性, 入所利用者数)



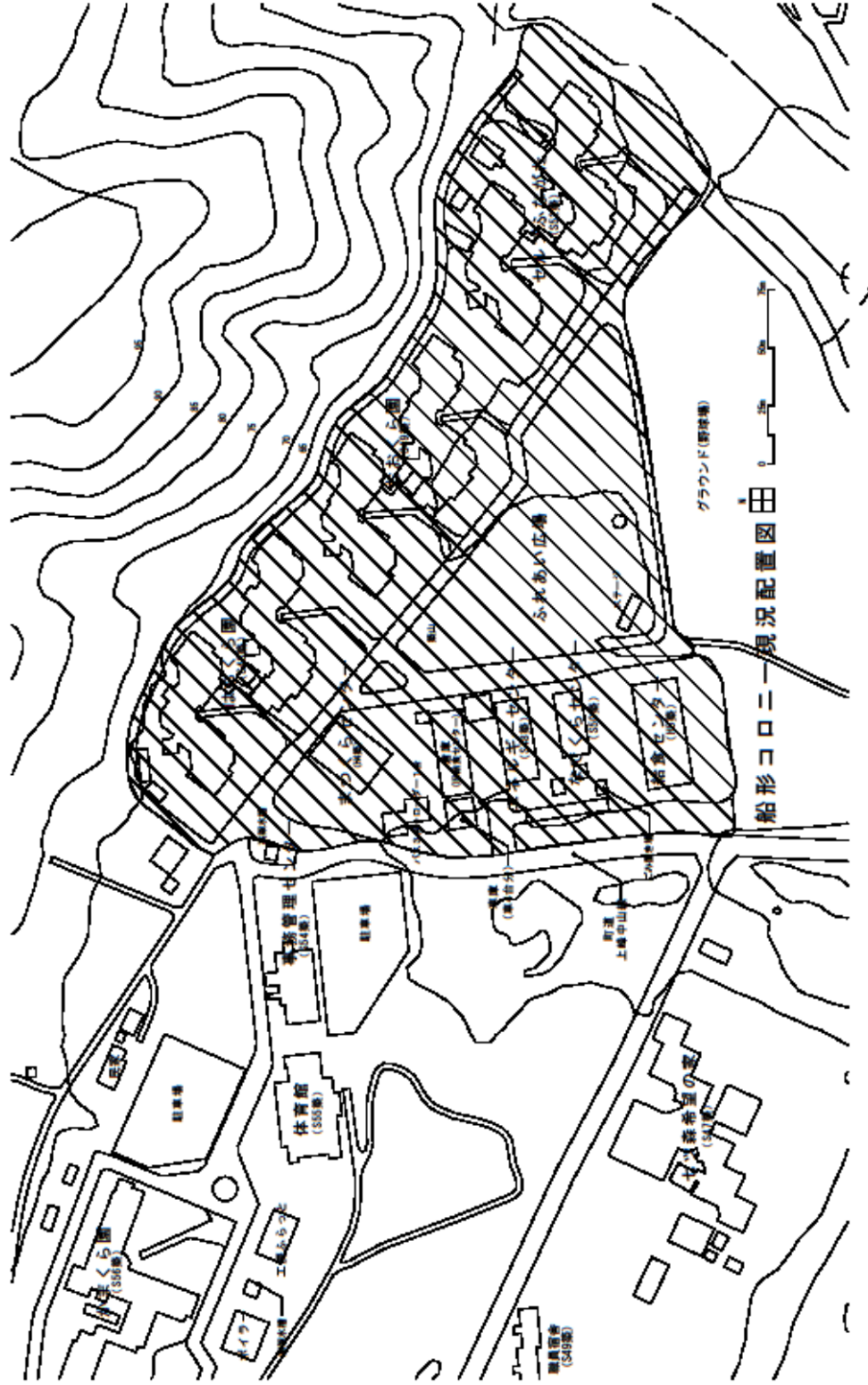
別図2-1

宮城県船形コロニー改築等事業 航空写真



別図2-2

宮城県船形コロ二一改築等事業 現況配置図



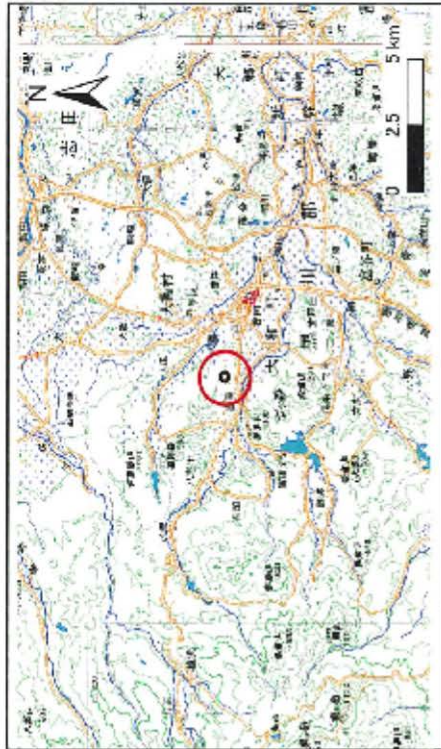
別図3

土砂災害危険区域

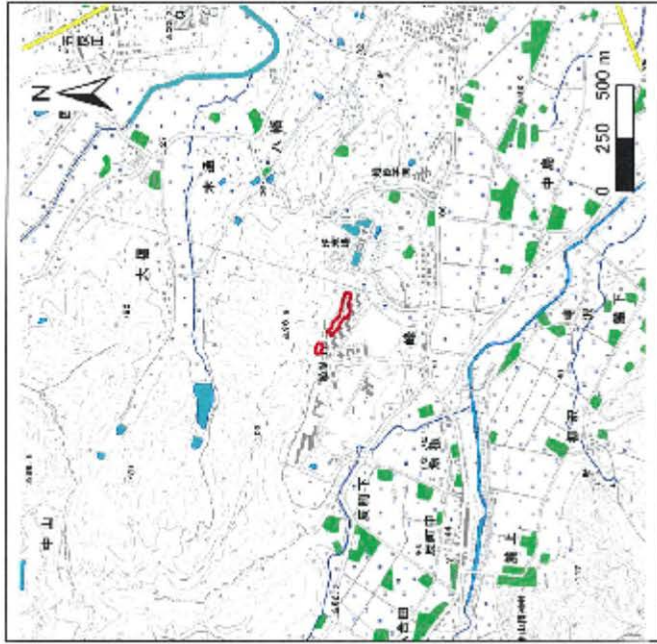
土砂災害防止に関する基礎調査(急傾斜地の崩壊)

表紙 概況、位置図

自然現象の種類	急傾斜地の崩壊		
箇所番号	I-自-1362		
箇所名	中峯		
所在地	黒川郡大和町吉田字中峯、吉田字上童子沢		
調査機関	宮城県仙台土木事務所		



位置図(S=1:200,000)



概況図(S=1:25,000)

宮城県

急傾斜地の崩壊区域調査

様式3-1 危層のおよそのある土地、著しい危層のおよそのある土地の所在図

調査年度 平成27年度 調査地区 尾道市吉田学区 吉田字上野アケ

急傾斜地の位置 橋前番号 1-1-1333 箇所名 中野 中野 所在地 所在地



凡例

- 上端
- ▲ 下端
- 横断測線
- 危層のおよそのある土地の区域
- 著しい危層のおよそのある土地の区域
- 土石等の移動による力が10kN/m²を超える範囲
- 土石等の堆積高が8mを超える範囲

宮崎県

報 告 書

民第16号(均質)

宮城県心身障害者総合福祉施設(2021-)均質調査

昭和48年3月30日

株式会社 和田工業所

Ⅱ 調査事項

- 1) 件名 民第16号(均質)
- 2) 場所 宮城県黒川郡大和町吉田学塚内
- 3) 目的 本調査は建設予定敷地内において均質調査を行ない、調査地内における地盤の地質構成及び強度を知り、予定される構造物の基礎構造設計に際する基本的な資料を得ることを目的としたものである。

4) 内容

a) 試験 合計 26 孔 目盛 = 66 m²/m

深度	1 孔	10 m	10 孔	10 m	19 孔	17 m
	2 孔	10 m	11 孔	10 m	20 孔	15 m
	3 孔	15 m	12 孔	10 m	21 孔	10 m
	4 孔	15 m	13 孔	15 m	22 孔	15 m
	5 孔	10 m	14 孔	10 m	23 孔	10 m
	6 孔	10 m	15 孔	12 m	24 孔	10 m
	7 孔	15 m	16 孔	15 m	25 孔	10 m
	8 孔	10 m	17 孔	11 m	26 孔	10 m
	9 孔	10 m	18 孔	15 m		
					計	310 m

b) 標準貫入試験 (JIS 1219)

深度が 1.0 m 相当毎に実施 計、310 点

5) 調査期間 昭和48年3月23日 - 3月20日

6) 調査担当者 (50 音順)

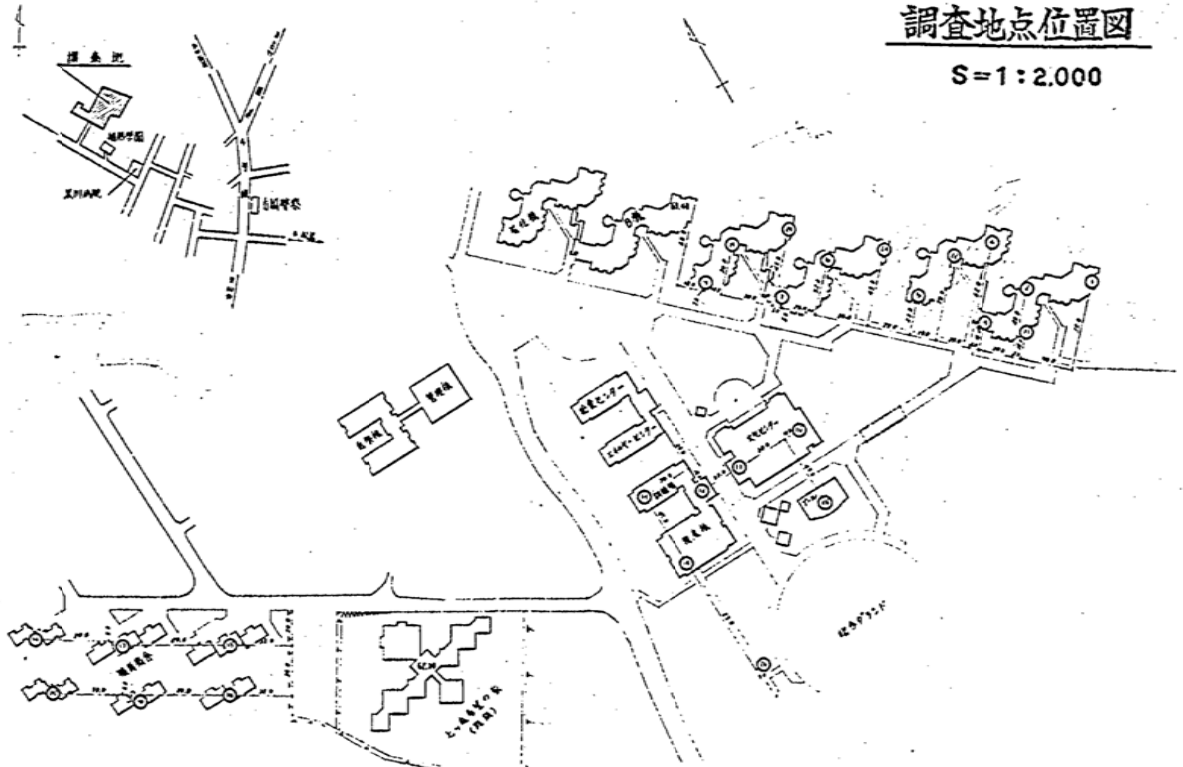
佐藤 和則	佐藤 好男
高橋 茂悦	宮本 榮一
豊島 英	木野 義治
菅川 武英	八島 義治

種別	棟	面積	容積	高さ	延床	階数	用途	構造	基礎	基礎	基礎	基礎
F	1	55.28	0.1 (?)	10.0	1.9 (53.38)	B	1.0 (54.28)		3.72	P	58.0	B. 2.15 杭基礎に統一 打込深さ=3~4m (11~12頁参照)
	2	57.37	2.3 (55.07)	10.0	4.3 (53.07)	B	3.0 (54.37)		3.63	P		
	21	56.49	0.8 (55.69)	10.0	1.9 (54.59)	C	2.0 (54.49)		3.51	P		
	3	58.45	1.6 (56.85)	15.0	3.6 (54.85)	*A	2.0 (56.45)		*1.55	F		
B	4	60.86	1.6 (59.26)	15.0	5.9 (54.96)	B	5.0 (55.86)		3.14	P	59.0	C. 2.64 杭基礎に統一または 根切深さを下げる? (12頁参照)
	22	63.86	4.1 (59.76)	15.0	8.4 (55.46)	*B	5.0 (58.86)		*0.14	F		
	5	60.62	2.5 (58.12)	10.0	4.8 (55.82)	B	2.0 (58.62)		0.38	F		
D	23	62.89	1.1 (61.79)	10.0	5.8 (57.09)	C	6.0 (56.89)		3.11	P	60.0	B. 2.75 杭基礎に統一 打込深さ=3~7m (13頁参照)
	6	61.65	1.6 (60.05)	10.0	4.4 (57.25)	*A	3.0 (58.65)		*1.35	F		
	7	58.77	0.6 (58.17)	15.0	5.0 (53.77)	C	5.0 (53.77)		6.23	P		
C	24	63.18	2.3 (60.88)	10.0	5.5 (57.68)	B	5.0 (58.18)		2.82	P	61.0	打込深さ=3~5m
	8	61.45	0.9 (60.55)	20.0	4.2 (57.25)	B	3.0 (58.45)		2.55	P		
	9	60.35	0.7 (59.65)	10.0	3.7 (56.65)	C	4.0 (56.35)		4.05	P		
文化	10	61.40	1.4 (60.00)	10.0	6.9 (54.50)	C	7.0 (54.40)		6.60	P	61.0	B. 3.38 打込深さ=4~7m (14頁参照)
	11	62.42	3.2 (59.22)	10.0	5.4 (57.02)	*A	4.0 (58.42)		*2.58	P		
機械 設備	12	62.00	1.8 (60.20)	10.0	3.8 (58.20)	A	3.0 (59.00)		2.00	F	61.0	直接基礎に統一 地盤弱か根切を下げる (14頁参照)
	13	62.37	4.2 (58.17)	15.0	5.4 (56.97)	A	3.0 (59.37)		1.65	F		
	14	61.43		10.0	4.6 (56.83)	A	3.0 (58.43)	*	*2.97	P		
機 械 室 舎	15	65.58		12.0	6.2 (59.38)	B	3.0 (62.58)		1.42	F	64.0	
	16	65.71	2.5 (63.21)	15.0	4.8 (60.91)	C	7.0 (58.71)		5.29	P		
	17	65.44	3.2 (62.24)	11.0	6.9 (58.54)	B	4.0 (61.44)		2.56	P		
	18	65.73	3.2 (62.53)	15.0	7.7 (58.03)	B	3.0 (62.73)		1.27	F		
	19	64.26		17.0	11.6 (56.66)	A	4.0 (60.26)		3.74	P		
	20	64.55	5.3 (59.25)	15.0	7.6 (56.95)	A	2.0 (62.55)		1.45	F		
J-1	25	61.70	2.3 (59.40)	10.0	3.9 (57.80)	B	2.0 (59.70)		0.80	F	60.5	
	26	62.00	2.6 (59.40)	10.0	4.6 (57.40)	B	4.0 (58.00)					

- (注) 1. 単位は、㎡なり。
2. () 内数値は、日機床積(63.4㎡)並びにセリ森塔の積(62.3㎡)を基準とした換算数値である。
3. 塔の構造種別中、Pは杭基礎、Fは直接基礎の種とする。
4. N=15以上の支脚付一塔型塔中、Aは根切基礎(塔中・ロームなど)、Bは柱基礎(塔中・ロームなど)、Cは柱基礎とする。
5. *印は、設計設計の塔型、塔の換算数値が弱くと思われる。

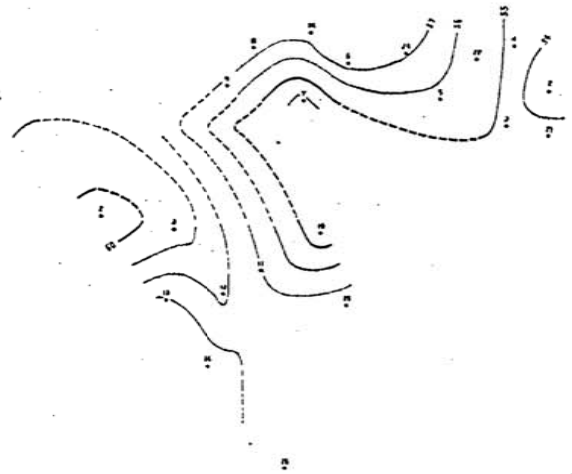
調査地点位置図

S=1:2,000



S = 1:2000

1	29.40	00.20	00.45
2	27.37	0.30	03.07
3	26.43	1.18	06.05
4	26.04	1.80	08.26
5	26.17	2.50	10.52
6	26.45	3.40	13.25
7	26.77	4.40	15.77
8	27.13	5.50	18.25
9	27.55	6.70	20.82
10	28.00	8.00	23.20
11	28.47	9.50	25.62
12	28.90	1.10	28.20
13	29.37	2.20	30.97
14	29.83	3.50	33.83
15	30.28	5.00	36.88
16	30.77	6.50	39.97
17	31.24	8.20	43.04
18	31.73	10.00	46.03
19	32.26	11.90	49.06
20	32.83	14.00	52.05
21	33.44	16.30	55.09
22	34.09	18.80	58.08
23	34.78	21.50	61.02
24	35.51	24.40	64.01
25	36.28	27.50	67.05
26	37.09	30.80	70.14
27	37.94	34.30	73.28
28	38.83	38.00	76.47
29	39.76	41.90	79.71
30	40.73	46.00	83.00



● 测量控制点 (47.12.46-28)
 ▲ 房屋建筑

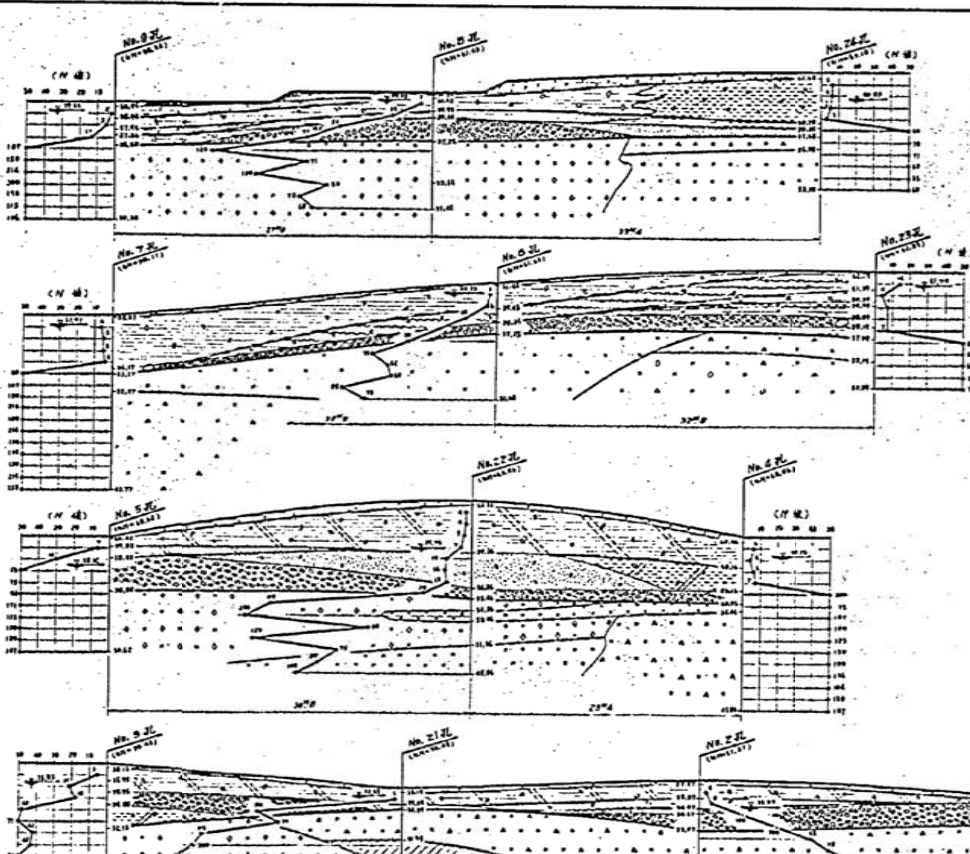
地層断面想定図

S=1:300

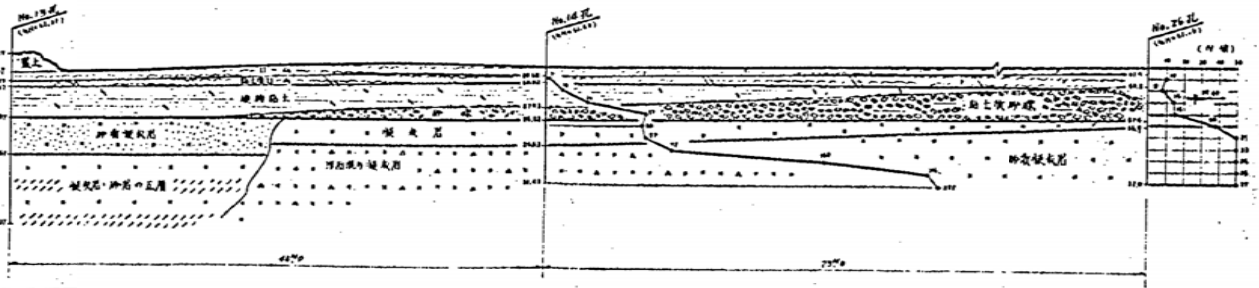
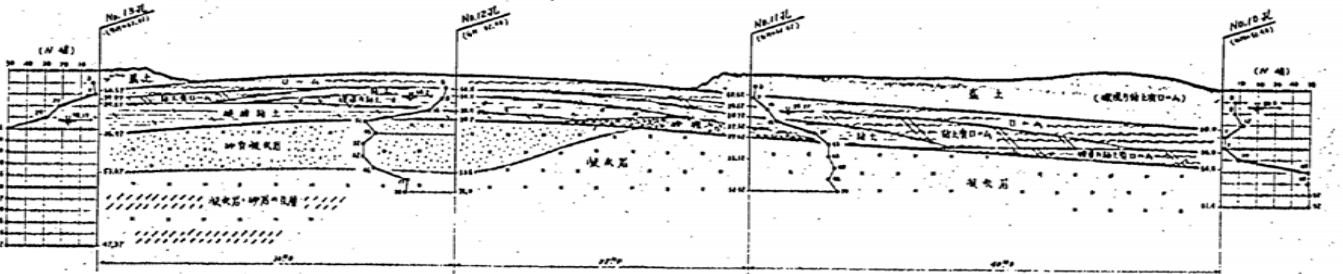
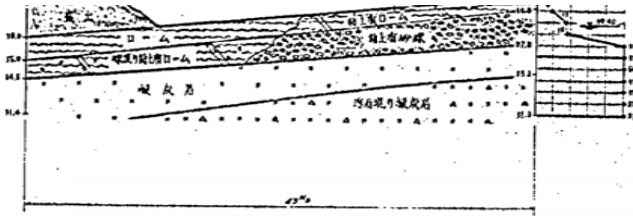
居住棟周辺

凡例

- | | |
|------------|----------|
| ① 粘土 | ⑬ 砂 |
| ② 砂 | ⑭ 火山砂 |
| ③ 砂 | ⑮ 硬質火山砂 |
| ④ 高砂質粘性土 | ⑯ 砂質粘性土 |
| ⑤ 硬質粘性土 | ⑰ 砂 |
| ⑥ シルト質粘土 | ⑱ 頁岩 |
| ⑦ 硬質シルト質粘土 | ⑲ 砂岩 |
| ⑧ 砂 | ⑳ 凝灰岩 |
| ⑨ 砂質泥岩 | ㉑ 砂質凝灰岩 |
| ⑩ 砂 | ㉒ 頁岩凝灰岩 |
| ⑪ 砂 | ㉓ 片麻岩凝灰岩 |
| ⑫ 凝灰岩 | ㉔ 凝灰岩凝灰岩 |



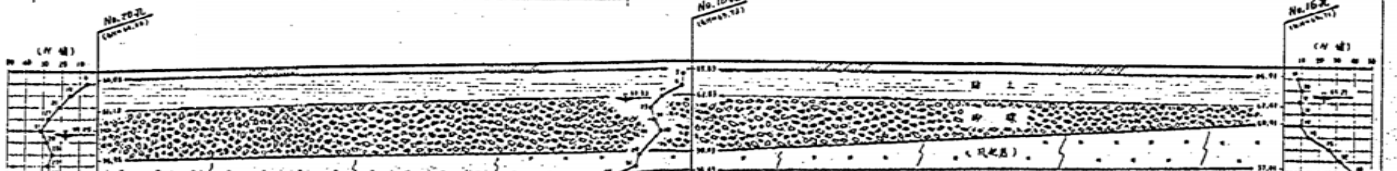
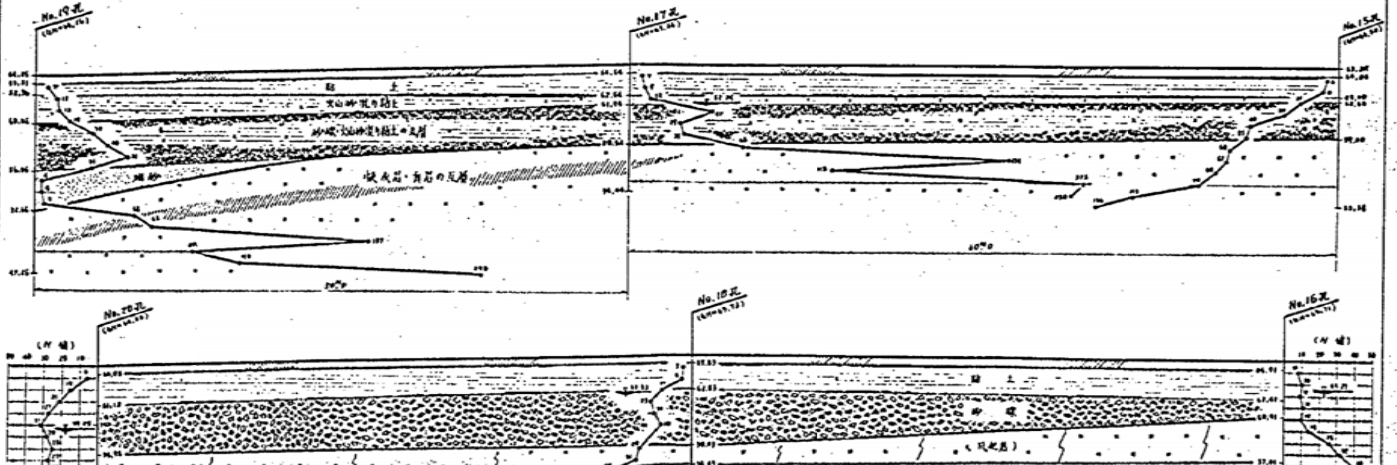
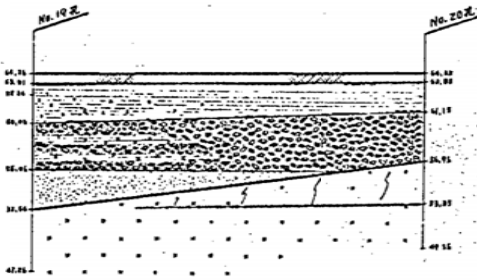
文化センター周辺



地層断面想定図

S=1:300

職員宿舍周辺



目的 透不試験

No.1号孔 柱状図									
試錐機種	東邦AZ-B型	探高	55.28	全掘進長	10.00m	起工	S 42.3.23	竣工	株式会社和田工務所
原動機種		試錐孔径	66mm	コア採取長		完工	S 42.3.24	試験担当	豊島 実
ポンプ種		方向傾斜		コア採取率		作業日数	2	既	歴

月日 (天)	深 度 (M)	柱 状 図	試錐番号	土 地 質 類	色 調	硬 度	記 事	孔内水位 (M)	コア採取長 (M)	コア採取率 (%)	不 完 試 錐 率 (%)	標 準 貫 入 試 験								
												位 置	N	打撃数 (回)	N 値					
												0	10	20	30	40	50			
	0.00						水工	2.00												
	1.00		1	砂	赤	軟	砂含有量30%位 最大粒径7mm位 0-4mm含有する	2.00					1.02	150	50					
	2.00		2				砂含有量10-20%位含有し 小粒径砂干渉する	2.00					2.00	60	19	19				
	3.00		3				全般に固結度弱く所々 固結部が片状又は 粒状に採取される。	2.00					2.00	65	21	29				
	4.00		4					2.00					4.00	100	31	19%				
	5.00		5	浮石質凝灰岩	緑	軟		2.00					5.00	66	27	20%				
	6.00		6				6.00m付近にて40%位 の湧水がみられる 所々に褐色部が見 られる	2.00					6.00	73	25	25%				
	7.00		7					2.00					7.00	100	27	25%				
	8.00		8					2.00					8.00	115	35	15%				
	9.00		9					2.00					9.00	100	29	15%				
	10.00		10					2.00					10.00	125	39	15%				

目的 建築基礎

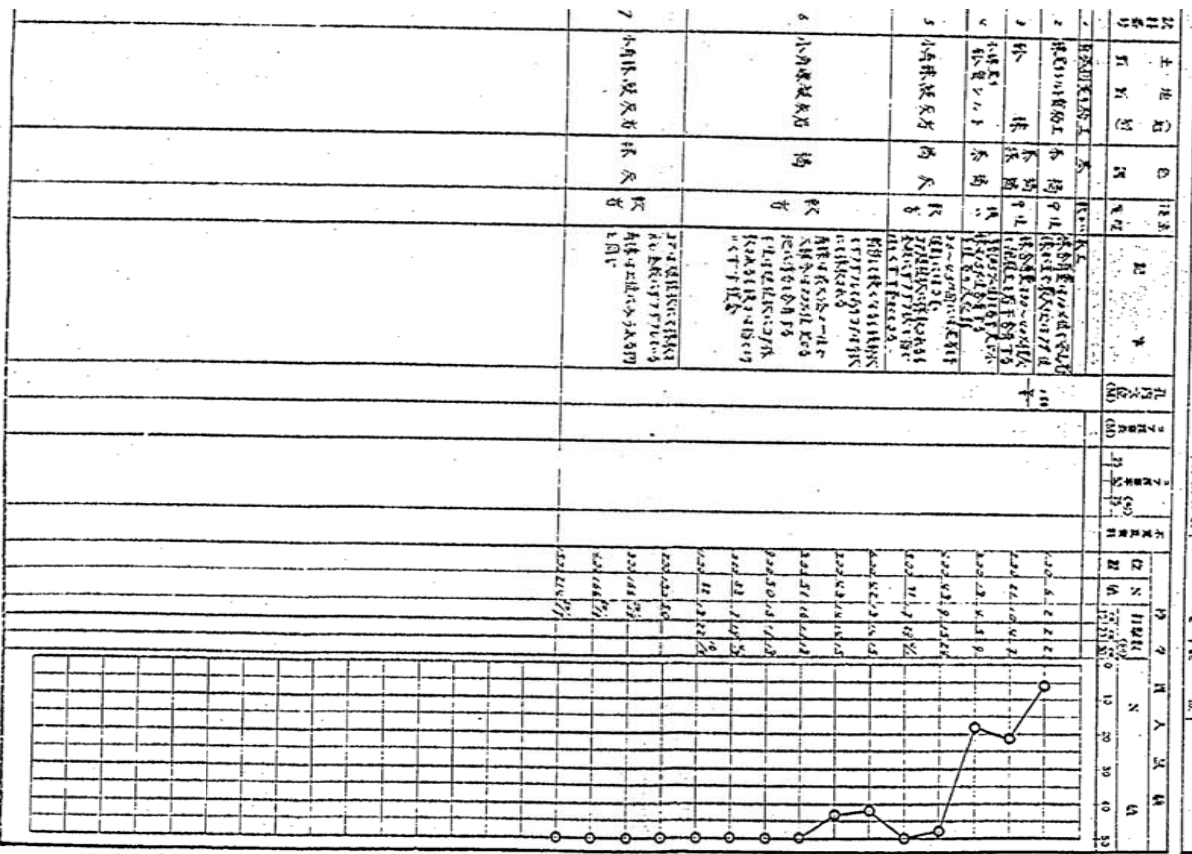
No.2号孔 柱状図									
試錐機種		探高	57.37	全掘進長	10.00m	起工	S 42.3.25	竣工	株式会社和田工務所
原動機種		試錐孔径	66mm	コア採取長		完工	S 42.3.26	試験担当	豊島 実
ポンプ種		方向傾斜		コア採取率		作業日数	2	既	歴

月日 (天)	深 度 (M)	柱 状 図	試錐番号	土 地 質 類	色 調	硬 度	記 事	孔内水位 (M)	コア採取長 (M)	コア採取率 (%)	不 完 試 錐 率 (%)	標 準 貫 入 試 験								
												位 置	N	打撃数 (回)	N 値					
												0	10	20	30	40	50			
	0.00						水工	2.30												
	1.00		1	小粒径シルト質粘土	赤	軟	小粒径10%位含有する 0-4mm位で細かい	2.30					1.00	4	1	1				
	2.00		2	小粒径粘土	赤	軟	小粒径砂干渉する 小粒径10%位含有する	2.30					2.00	3	2	2				
	3.00		3	凝灰岩	赤	中	凝灰岩の含有量は15%位 最大粒径は10mm位	2.30					3.00	100	33	15%				
	4.00		4	砂	赤	軟	砂含有量は40%位 最大粒径は10mm位	2.30					4.00	500	23	15%				
	5.00		5				5.00m付近に砂含有 が比較的小さい固結 度が高く密状と云える	2.30					5.00	65	27	22%				
	6.00		6	浮石質凝灰岩	緑	軟	最大粒径は10mm位 に含有し固結度が弱 く指で叩くと丁字が容易 に壊れる	2.30					6.00	75	21	29				
	7.00		7				全般にこわくコアが小片 状と飛入する コア採取率に低下する	2.30					7.00	93	31	16%				
	8.00		8					2.30					8.00	75	22	23				
	9.00		9					2.30					9.00	72	22	28%				

表A-1 概

第6号地区の地盤調査報告書 No. 9 住 宅 区

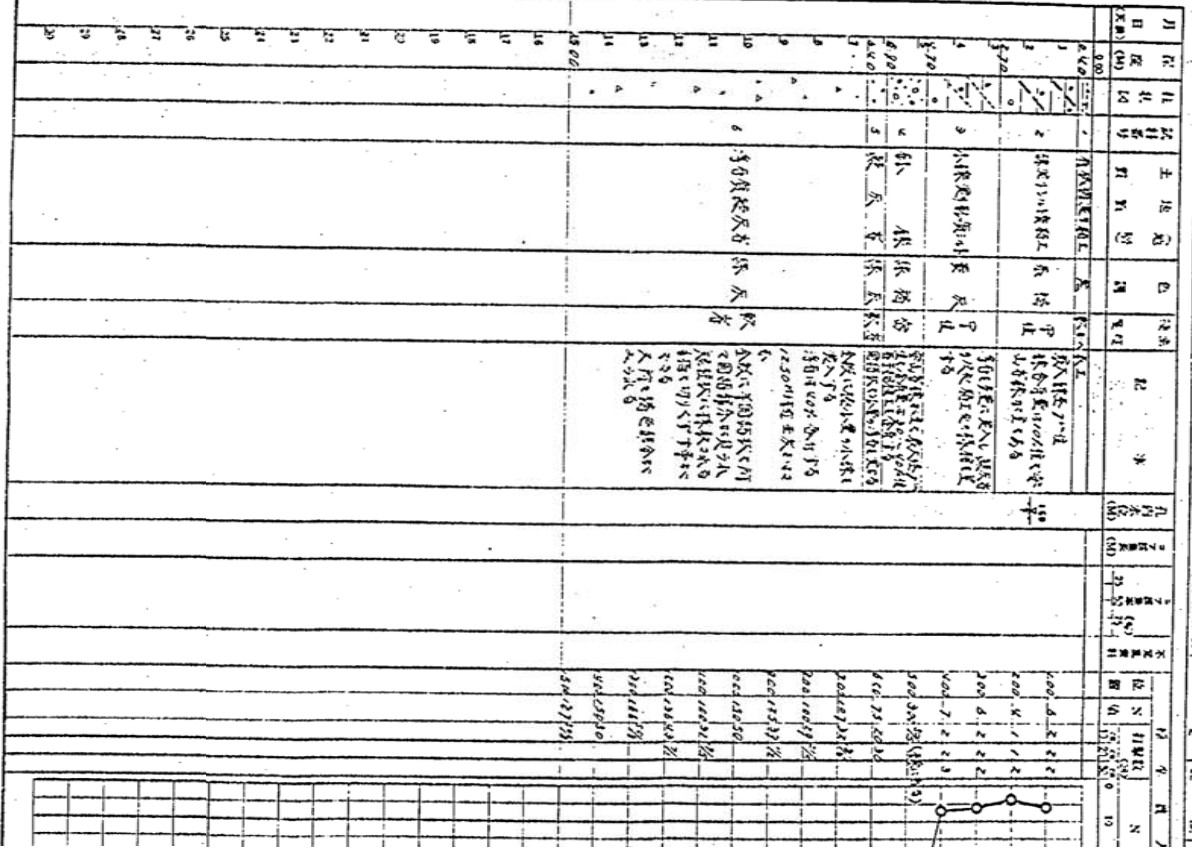
調査地区	第6号地区	調査年度	昭和27年
調査目的	地盤調査	調査回数	1回
調査方法	標準貫入試験	調査地点	1ヶ所
調査結果	地盤強度	調査結果	地盤強度



表A-2 概

第6号地区の地盤調査報告書 No. 9 住 宅 区

調査地区	第6号地区	調査年度	昭和27年
調査目的	地盤調査	調査回数	1回
調査方法	標準貫入試験	調査地点	1ヶ所
調査結果	地盤強度	調査結果	地盤強度



目的 建築基礎

氏才16号(地質)宮城県仙台市青葉区宮城福祉施設地質調査 No.9号孔		柱状図						
試錐機種	標高	60.35	全掘進長	10.00M	起工	S42.3.25	竣工	株式会社和田工務所
原動機種	試錐孔径	667mm	コブ探査長		完工	S42.3.27	試錐担当	坂藤 恒夫
ポンプ種	方向傾斜		コブ採取中		作業日数	3	経歴	

月日 (天)	深度 (M)	柱状 図	試錐 番号	土質 (地質)	色調	地味 状態	記号	孔内 水位 (M)	コブ 採取 長さ (M)	コブ 採取 率 (%)	不 実 地 質 判 断	標準貫入試験							
												位 置	N 値	打撃 数 (回)	N 値				
												0	10	20	30	40	50		
	0.00																		
	1.20		1	砂	黄	軟	変工	0.70					1.00	2	1				
	1.40		2	角礫河泥り粘土	黒	軟	変工						2.00	5	1	2	2		
	2.40		3	小礫泥りシルト質粘土	茶	粘	中位						3.00	5	1	2	2		
	2.70		4	角礫泥りシルト質粘土	緑	粘	軟						3.00	12	5	4	4		
	3.70		5	砂	黄	軟	変工						4.00	12	7	7			
	5.00												5.00	15	10	10			
	6.00		6	小礫凝灰岩	緑	硬	変工						6.00	21	14	14			
	7.00												7.00	22	15	15			
	8.00												8.00	15	10	10			
	9.00												9.00	11	7	7			
	10.00												10.00	12	7	7			

目的 建築基礎

氏才16号(地質)宮城県仙台市青葉区宮城福祉施設地質調査 No.10号孔		柱状図						
試錐機種	標高	61.41m	全掘進長	10.00M	起工	S42.3.22	竣工	株式会社和田工務所
原動機種	試錐孔径	667mm	コブ探査長		完工	S42.3.30	試錐担当	坂藤 恒夫
ポンプ種	方向傾斜		コブ採取中		作業日数	3	経歴	

月日 (天)	深度 (M)	柱状 図	試錐 番号	土質 (地質)	色調	地味 状態	記号	孔内 水位 (M)	コブ 採取 長さ (M)	コブ 採取 率 (%)	不 実 地 質 判 断	標準貫入試験							
												位 置	N 値	打撃 数 (回)	N 値				
												0	10	20	30	40	50		
	1.00		1	砂	黄	軟	変工	1.40					1.00	8	2	2	2		
	2.00		2	砂	黄	軟	変工						2.00	8	2	2	2		
	2.40		3	砂	黄	軟	変工						2.00	12	2	2	2		
	2.70		4	砂	黄	軟	変工						4.00	2	2				
	5.00		5	砂	黄	軟	変工						5.00	2	2				
	6.00		6	砂	黄	軟	変工						6.00	10	2	2	2		
	7.00		7	砂	黄	軟	変工						7.00	4	15	15	15		
	8.00		8	砂	黄	軟	変工						8.00	4	15	15	15		
	9.00		9	砂	黄	軟	変工						9.00	5	16	16	16		

目的 建築基礎									
No.11号孔 柱状図									
試錐機種	標高	62.42m	全掘進長	10.00M	起工	1943.3.23	竣工	1943.3.24	株式会社和田工務所
原動機種	試錐孔径	66mm	コブ採集長		完工	1943.3.24	試錐担当	八尋義治	
ポンプ種	方向傾斜		コブ採集率		作業日数	2	班	班	

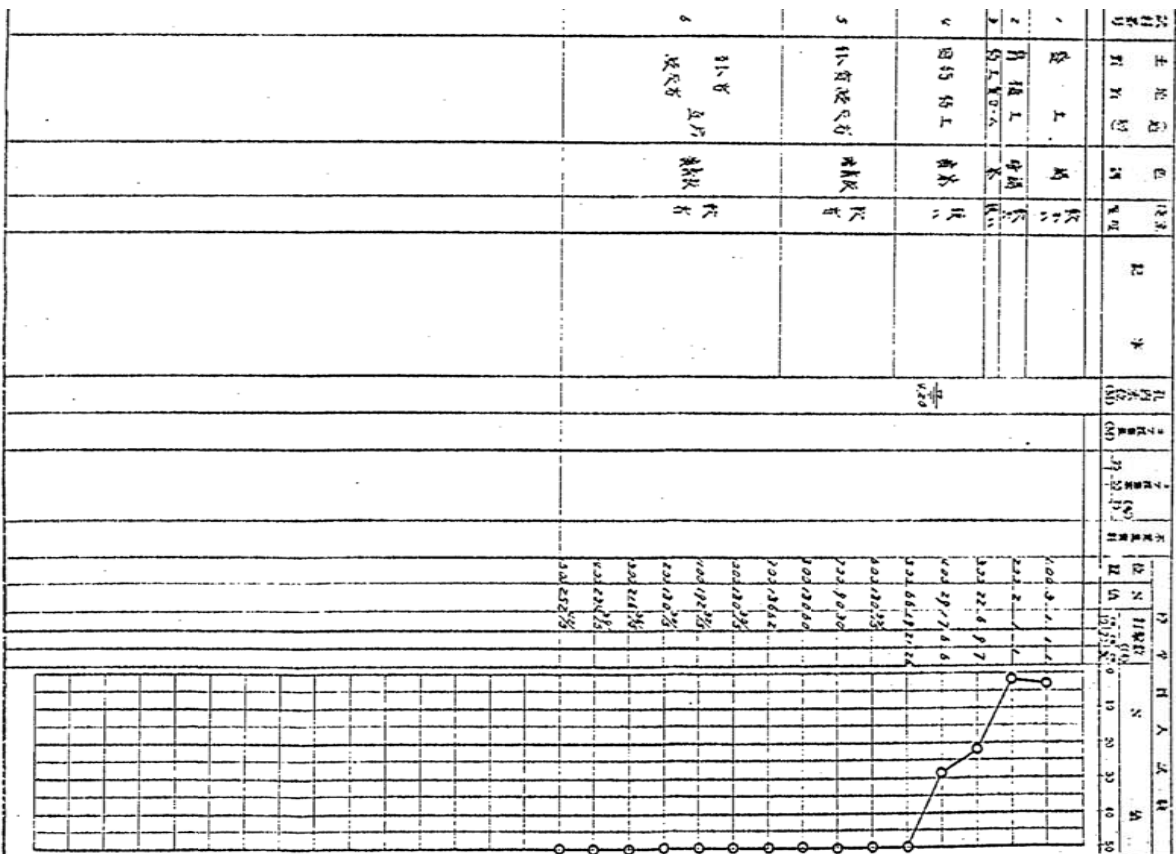
月日 (天候)	深 度 (M)	柱 状 図	試錐 番 号	土 質 記 号	地 層 記 号	色 調	硬 度	注 記	孔内 水 位 (M)	コブ 採 集 長 (M)	コブ 採 集 率 (%)	標準貫入試験									
												位 深	N	打撃数 (回)	N						
	0.00																				
	1.20	X	1	砂	工	茶	軟						1.00	2	1	1					
	2.20		2	砂	工	茶	軟						2.00	2	1	1					
	3.20		3	砂	工	茶	軟						3.00	10	3	3	4				
	3.70		4	砂	工	茶	軟						4.00	15	4	5	6				
	4.60		5	砂	工	茶	軟						5.00	27	10	12	15				
	5.40		6	砂	工	茶	軟						6.00	45	13	15	17				
	6		7	凝灰岩		黄	軟						7.00	45	13	15	17				
	7.20		8	凝灰岩		黄	軟						8.00	43	14	14	13				
	8		9	凝灰岩		黄	軟						9.00	45	14	14	15				
	10.00												10.00	50	14	16	20				

目的 建築基礎									
No.12号孔 柱状図									
試錐機種	標高	62.00m	全掘進長	10.00M	起工	1943.3.25	竣工	1943.3.26	株式会社和田工務所
原動機種	試錐孔径	66mm	コブ採集長		完工	1943.3.26	試錐担当	八尋義治	
ポンプ種	方向傾斜		コブ採集率		作業日数	2	班	班	

月日 (天候)	深 度 (M)	柱 状 図	試錐 番 号	土 質 記 号	地 層 記 号	色 調	硬 度	注 記	孔内 水 位 (M)	コブ 採 集 長 (M)	コブ 採 集 率 (%)	標準貫入試験									
												位 深	N	打撃数 (回)	N						
	0.00																				
	1.20		1	砂	工	茶	軟						1.00	6	2	2	2				
	2.20		2	砂	工	茶	軟						2.00	8	2	3	3				
	3.20		3	砂	工	茶	軟						3.00	15	10	2	3				
	3.70		4	砂	工	茶	軟						4.00	5	16	17	18				
	4.60		5	凝灰岩	石	黄	軟						5.00	45	10	17	20				
	5.40		6	凝灰岩	石	黄	軟						6.00	52	16	17	19				
	6		7	凝灰岩	石	黄	軟						7.00	52	16	17	19				
	7.20		8	凝灰岩	石	黄	軟						8.00	46	16	18	12				
	8		9	凝灰岩	石	黄	軟						9.00	27	8	9	10				

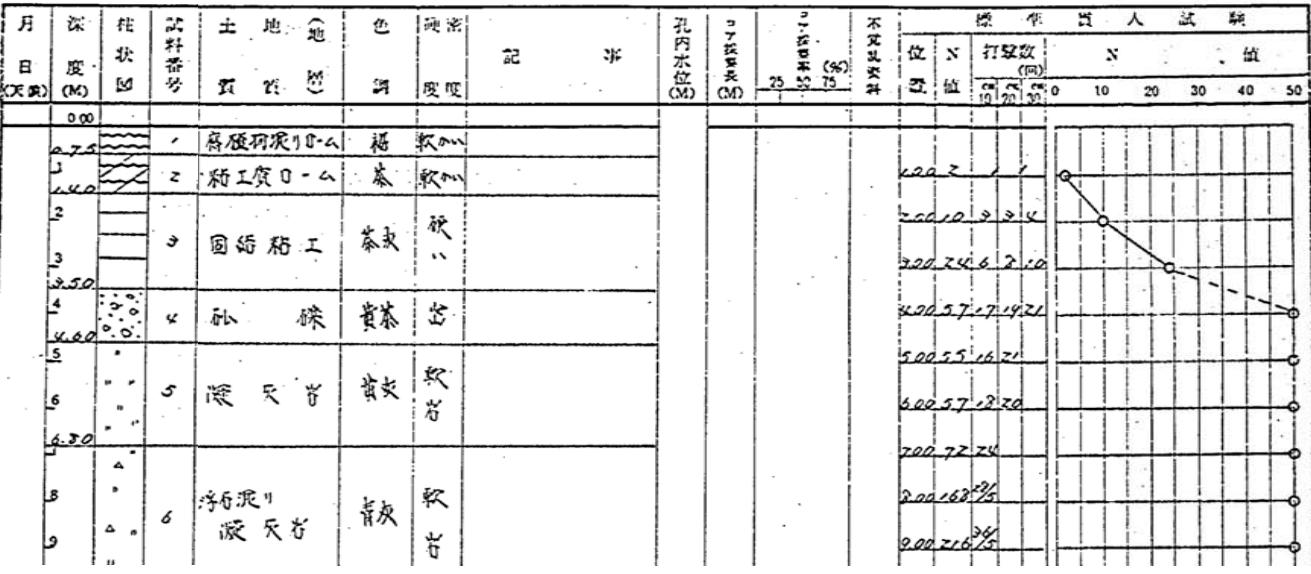
本表は、地質調査の記録用紙として用いられ、以下の項目を記載する。

調査番号	12737	全深	15.00m	柱状図	12737-3.2.27
地質調査	12737	全深	15.00m	柱状図	12737-3.2.27
調査日	12737	全深	15.00m	柱状図	12737-3.2.27
調査場所	12737	全深	15.00m	柱状図	12737-3.2.27



目的: 基礎調査
 調査番号: No.14号孔
 柱状図

試錐機種	深	61.43m	全深	10.00m	起工	12737-3.2.27	施工	株式会社和田工業所
原動機種	試錐口径	66mm	コ7探架長		完工	12737-3.2.27	試錐担当	本館
ポンプ種	方向傾斜		コ7探架平		作業日数	2	延	1

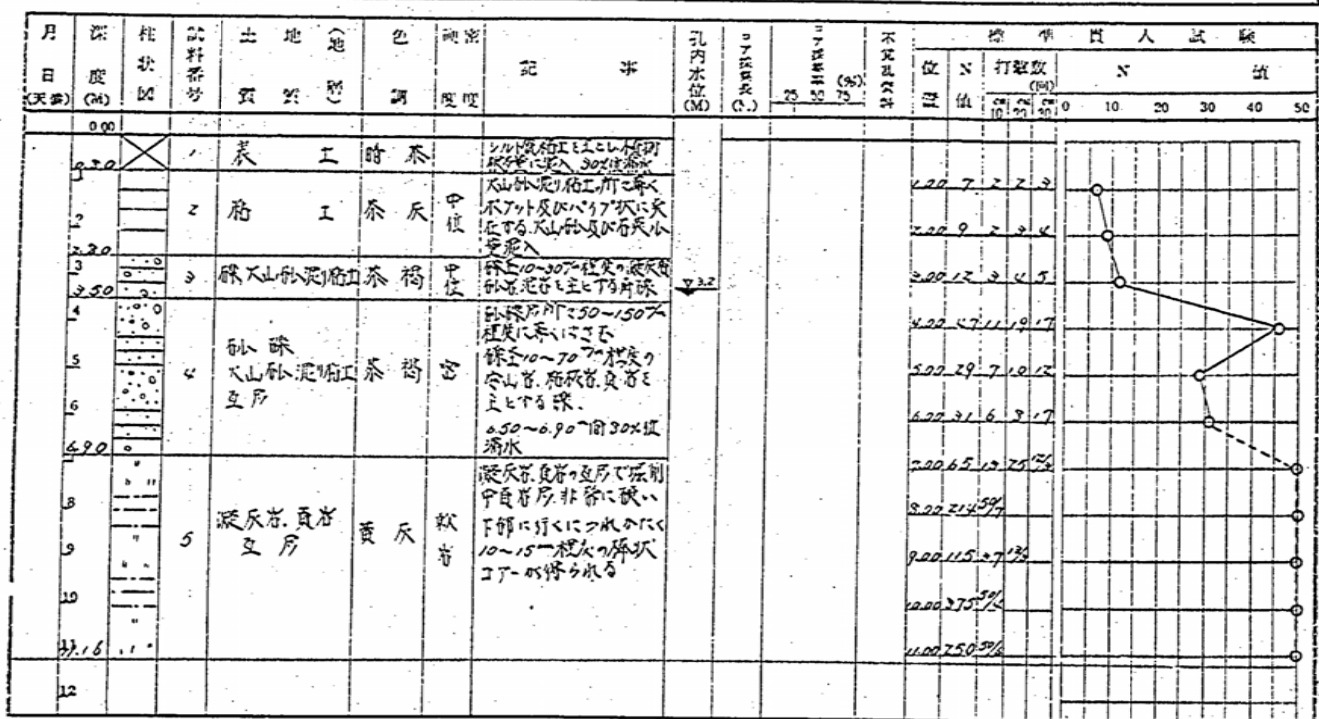


試験機種	深	高	全掘進長	起	工	終	工	株式会社和田工務所
原動機種	試験孔径	コア採集長	完	工	終	工	試験担当	不郷 茂一
ポンプ種	方向傾斜	コア採集中	作業日数				班	班

月日 (天)	深度 (M)	柱状図	試料番号	土質 (地質)	色調	硬度	備考	孔内水位 (M)	コア採取長 (M)	全掘進長 (M)	試験値		試験人					
											位	位	行	行	行	行	行	行
0.00				灰工	暗	灰												
0.70				粘工	赤	灰	干位					4.00	6.1	2.3				
2.50				砂	赤	灰	干位					2.00	9.2	3.2				
2.90				砂	赤	灰	干位					2.00	21.5	9.7				
4.00				砂	赤	灰	干位					4.00	30.2	10.1				
5.00				砂	赤	灰	干位					5.00	49.15	14.2				
6.20				砂	赤	灰	干位					6.00	51.12	17.6				
7.00				砂	赤	灰	干位					7.00	60.15	21.4				
8.00				砂	赤	灰	干位					8.00	67.16	25.6				
9.00				砂	赤	灰	干位					9.00	68.17	25.6				
10.00				砂	赤	灰	干位					10.00	78.22	27.4				
11.00				砂	赤	灰	干位					11.00	115.25	29.4				
12.11				砂	赤	灰	干位					12.00	176.40	29.4				

月日	深度	柱状図	試料番号	土質	色調	硬度	備考	孔内水位	コア採取長	全掘進長	試験値	試験人
0.00				灰工	暗	灰						
0.70				粘工	赤	灰	干位				4.00 6.1 2.3	
2.50				砂	赤	灰	干位				2.00 9.2 3.2	
2.90				砂	赤	灰	干位				2.00 21.5 9.7	
4.00				砂	赤	灰	干位				4.00 30.2 10.1	
5.00				砂	赤	灰	干位				5.00 49.15 14.2	
6.20				砂	赤	灰	干位				6.00 51.12 17.6	
7.00				砂	赤	灰	干位				7.00 60.15 21.4	
8.00				砂	赤	灰	干位				8.00 67.16 25.6	
9.00				砂	赤	灰	干位				9.00 68.17 25.6	
10.00				砂	赤	灰	干位				10.00 78.22 27.4	
11.00				砂	赤	灰	干位				11.00 115.25 29.4	
12.11				砂	赤	灰	干位				12.00 176.40 29.4	

試験機種	標高	65.44	全掘進長	11.16	起工	8.27.23	施工	株式会社加田工務所
原動機種	試験孔径	667	コア採集長		完工	8.27.26	試験担当	菅原 宗彦
ポンプ種	方向傾斜		コア採集率		作業日数	2	経歴	



月日	深度	試料番号	土地色	地質	備考	孔内水位	N	標準貫入値
8.27.23	0.00							
8.27.23	0.70	1	表	工時	シルト質粘土にシルト質砂が混入し、20%程度の砂が混入している。試験に際しては、シルト質粘土として扱う。		1.20	7
8.27.23	2.20	2	粘	工時	粘土質粘土にシルト質砂が混入している。試験に際しては、粘土質粘土として扱う。		2.20	9
8.27.23	3.50	3	砂	山砂	砂質粘土にシルト質砂が混入している。試験に際しては、砂質粘土として扱う。		3.50	12
8.27.23	4.00	4	砂	山砂	砂質粘土にシルト質砂が混入している。試験に際しては、砂質粘土として扱う。		4.22	17
8.27.23	5.00	5	砂	山砂	砂質粘土にシルト質砂が混入している。試験に際しては、砂質粘土として扱う。		5.07	29
8.27.23	6.00	6	砂	山砂	砂質粘土にシルト質砂が混入している。試験に際しては、砂質粘土として扱う。		6.27	31
8.27.23	6.90	7	砂	山砂	砂質粘土にシルト質砂が混入している。試験に際しては、砂質粘土として扱う。		7.00	65
8.27.23	8.00	8	砂	山砂	砂質粘土にシルト質砂が混入している。試験に際しては、砂質粘土として扱う。		8.27	214
8.27.23	9.00	9	砂	山砂	砂質粘土にシルト質砂が混入している。試験に際しては、砂質粘土として扱う。		9.00	115
8.27.23	10.00	10	砂	山砂	砂質粘土にシルト質砂が混入している。試験に際しては、砂質粘土として扱う。		10.00	275
8.27.23	11.16	11	砂	山砂	砂質粘土にシルト質砂が混入している。試験に際しては、砂質粘土として扱う。		11.00	250

試験機種	標高	65.44	全掘進長	11.16	起工	8.27.23	施工	株式会社加田工務所
原動機種	試験孔径	667	コア採集長		完工	8.27.26	試験担当	菅原 宗彦
ポンプ種	方向傾斜		コア採集率		作業日数	2	経歴	

試器機種										標高	56.99	全掘進長	10.00M	起工	△4.3.26	竣工	株式会社和田工務所
原動機種										試掘孔径	66mm	コア探査長		完工	△4.3.27	試掘担当	坂本剛
ポンプ種										方向短絡		コア探査車		作業日数	2	距離	

月日(天)	深度(M)	柱状図	試料番号	土質	色調	硬度	備考	孔内水位(M)	試掘機	ポンプ	標準貫入試験		試験値						
											打撃数(N)	位置	0	10	20	30	40	50	
	0.00																		
	0.20		1	片麻岩	灰	軟													
	0.50		2	小粒凝灰岩	灰	軟													
	1.40		3	小粒凝灰岩	灰	軟													
	2.90		4	シルト質粘土	灰	軟													
	3.00		5	劣質凝灰岩	灰	軟													
	4.40																		
	5.00		6	頁岩	暗緑	軟													
	7.20																		
	8.00		7	小粒凝灰岩	灰	軟													
	9.00																		
	10.00																		

月日	深度(M)	試掘機	ポンプ	土質	色調	硬度	備考	孔内水位(M)	試掘機	ポンプ	標準貫入試験	試験値							
											打撃数(N)	位置	0	10	20	30	40	50	
	0.00																		
	0.20			片麻岩	灰	軟													
	0.50			小粒凝灰岩	灰	軟													
	1.40			小粒凝灰岩	灰	軟													
	2.90			シルト質粘土	灰	軟													
	3.00			劣質凝灰岩	灰	軟													
	4.40																		
	5.00			頁岩	暗緑	軟													
	7.20																		
	8.00			小粒凝灰岩	灰	軟													
	9.00																		
	10.00																		

試器機種	標高	56.99	全掘進長	10.00M	起工	△4.3.26	竣工	株式会社和田工務所
原動機種	試掘孔径	66mm	コア探査長		完工	△4.3.27	試掘担当	坂本剛
ポンプ種	方向短絡		コア探査車		作業日数	2	距離	

目的 建築基礎

No.23号孔 柱状図

試験機種	標高	624.89	全掘進長	10.00m	起工	5.23.23	竣工	株式会社和田工務所
原動機種	試験孔径	667-	コア探査長		完工	5.23.24	試験担当	高橋俊成
ポンプ種	方向傾斜		コア探査率		作業日数	2	経歴	

月日 (天)	深 (M)	柱状図	試料番号	土質 (地質)	色調	硬密度	記号	孔内水位 (M)	コア採取長 (M)	コア採取率 (%)	不安定土質	標準貫入試験								
												位	N	打撃数 (回)	N 値					
												0	10	20	30	40	50			
	0.00			有機物入り粘土	褐色	軟	軟粘土													
	1.50		2	小粒径シルト	黄褐色	軟	粘土	1.10					1.00	15	6	2	2			
	2.60		3	小粒径シルト	黄褐色	軟	粘土						2.00	11	1	1	2			
	2.90		4	小粒径シルト	黄褐色	軟	粘土						3.00	7	2	2	3			
	4.00		5	小粒径シルト	黄褐色	軟	粘土						4.00	15	10	5	15			
	4.70		6	砂	黄褐色	軟	粘土						5.00	7	2	2	3			
	5.90		7	外層シルト	黄褐色	軟	粘土						6.00	23	27	34				
	7.70		8	浮石凝灰岩	黄褐色	軟	粘土						7.00	65	17	24	36			
	8.70		9	浮石凝灰岩	黄褐色	軟	粘土						8.00	67	19	27	36			
	10.00			浮石凝灰岩	黄褐色	軟	粘土						9.00	75	21	26	36			
													10.00	71	20	24	36			

目的 建築基礎

No.25号孔 柱状図

試験機種	標高	634.18	全掘進長	10.00m	起工	5.23.25	竣工	株式会社和田工務所
原動機種	試験孔径	667-	コア探査長		完工	5.23.26	試験担当	高橋俊成
ポンプ種	方向傾斜		コア探査率		作業日数	2	経歴	

月日 (天)	深 (M)	柱状図	試料番号	土質 (地質)	色調	硬密度	記号	孔内水位 (M)	コア採取長 (M)	コア採取率 (%)	不安定土質	標準貫入試験								
												位	N	打撃数 (回)	N 値					
												0	10	20	30	40	50			
	0.00			有機物入り粘土	褐色	軟	軟粘土													
	1.50		2	小粒径シルト	黄褐色	軟	粘土	2.30					1.00	6	1	2	3			
	2.50		3	小粒径シルト	黄褐色	軟	粘土						2.00	6	1	2	3			
	2.90		4	小粒径シルト	黄褐色	軟	粘土						3.00	5	1	2	2			
	4.40		5	シルト	黄褐色	軟	粘土						4.00	3	1	1	1			
	5.00		6	砂	黄褐色	軟	粘土						5.00	60	7	27	36			
	5.90		7	浮石凝灰岩	黄褐色	軟	粘土						6.00	77	21	29	36			
	6.60		8	浮石凝灰岩	黄褐色	軟	粘土						7.00	71	19	25	36			
	7.70		9	浮石凝灰岩	黄褐色	軟	粘土						8.00	65	16	24	36			
	8.70		10	浮石凝灰岩	黄褐色	軟	粘土						9.00	55	14	19	27			

